第3回

学生生活実態調査

2000年度

日本赤十字看護大学

第３回学生生活実態調査報告書の刊行にあたって

学生委員会委員長
武井麻子

本書は平成 12（2000）年に学生委員会が実施した第 3 回学生生活実態調査の結果をまとめたものである。第 1 回の調査は平成２（1990）年であったから、今回はそれから 10 年が経過していることになる。この間、世界は東西冷戦構造の崩壊という歴史的な転回点を迎え、日本もまたバブル経済の崩壊に続く深刻な経済不況を体験してきた。そうしたなか、犯罪の低年齢化や引きこもりの増加など、若者たちを巡る社会状況は、大きく変わろうとしている。

本学も平成５（1993）年の大学院設置を始め、平成７（1995）年には全寮制の廃止、平成 10（1998）年学部編入制度の開始、平成 11（1999）年度からの男子学生の入学など、この 10 年間に大きな変化を遂げてきた。そうした大学のあり方や社会経済の変化は、学生たちの生活にも大きな影響を与えているものと推測される。

こうした状況のもとで、ほぼ 4～5 年ごとをめどに継続して実施されてきた本調査も、いくつかの項目が現実に即さないものとなり、変更せざるを得なくなった。そのため、年度による比較が難しい項目も出てきている。とくに、携帯電話やインターネットの普及に象徴されるような、学生たちのライフスタイルの変化は、前回 1996 年の調査時には予想もされなかったことであった。こうした現象は、友人関係などを含めて学生たちの生活を一変させようとしているのではないだろうか。本調査で明らかにされた数字のなかから、そうした学生たちの生活ぶりが浮き上がってくることを期待したいと思う。そして、これからの大学のあり方を考える一助になればと願っている。

最後に、この実態調査に関わった平成 12（2000）年度学生委員会委員の岩瀬孝雄教授、竹中文良教授、遠藤公久助教授、稲田三津子助教授、吉田みつ子講師、村上明美講師、清水洋子講師、西村ユミ講師の各位、学務課の水戸部厚氏、渋澤毅氏ならびに多くの項目に根気よく答えてくださった学生の皆さんに心から感謝したい。

目　次

第３回学生生活実態調査報告書の刊行にあたって

Ⅰ　調査の目的と方法 …… 1
　１．調査の目的
　２．調査の方法
　　1)調査票
　　2)調査対象
Ⅱ　結果と考察
　１．住居について …… 3
　　1)住居形態
　　2)下宿の場合の住居
　　3)アパート・マンションの場合の住居
　　4)住居の満足度

　２．経済面について …… 10
　　1)1ヶ月平均の総支出額
　　2)1ヶ月平均の食費
　　3)自宅外通学生の1ヶ月平均の住居費
　　4)1ヶ月平均の勉学費
　　5)1ヶ月平均の娯楽・嗜好品費
　　6)1ヶ月平均の習い事の費用
　　7)1ヶ月平均の通学費
　　8)1ヶ月平均の通信費
　　9)家族等からの1ヶ月平均の援助額
　　10)奨学金の受給状況
　　11)ローン・クレジットカード等のトラブル

　３．アルバイトについて …… 25
　　1)アルバイト経験の有無
　　2)アルバイト実施時期
　　3)アルバイトの主な目的
　　4)授業期間中のアルバイト実施状況
　　5)長期休暇中のアルバイト実施状況

4．課外活動について …… 31
1)加入している学内・外のクラブ及び同好会
2)クラブ等の参加目的
3)夏期休暇中の主な行動
4)課外教育と学生の希望

5．生活時間について …… 38
1)睡眠時間
2)学習時間
3)通学時間
4)自由時間
5)課外活動時間

6．健康状態について …… 45
1)身体面の健康
2)精神面の健康

7．大学生活全般について …… 53
1)本学を選択した理由
2)入学満足度
3)勉強の継続についての意向
4)大学生活の中で大切に思っていること
5)学生生活の充実度
6)大学に対する期待や要望

8．卒業後の進路について …… 56

附録（調査票）

Ⅰ　調査の目的と方法

1．調査の目的

本学では1986年の開学以来、学生のより豊かな人間形成を図る一助とするために、学生の生活実態を把握することを目的に、全学部生を対象とした調査を学生委員会が実施している。第1回目の調査は、開学から4年目の1990年に実施された。第2回目の調査は、それから満5年が経過した1996年に実施され、それぞれの成果については報告書としてまとめられている。今年度は、第2回目から5年目にあたるため、学生の生活の推移を検討することを目的に第3回目の調査を実施することになった。

2．調査の方法

1）調査票

過去2回の実態調査において用いられた質問項目を再度吟味し、現在の学生においてもその生活実態を適切に把握できると判断される項目はそのまま残した。一方、現在の学生の生活実態にそぐわない項目は改訂し、新しい項目を追加するなどの検討を行った。その結果、大きく12項目（細かくは63項目）から構成される調査票が作成された。質問内容は概ね以下のように構成されている。

①住居（質問1から2）：住居の種類、住居状態と満足度など13項目
②経済面（質問3）：学費や生活費など11項目
③アルバイト（質問4）：アルバイト状況についての9項目
④課外活動（質問5）：サークル、課外教育など10項目
⑤生活時間（質問6）：睡眠時間、学習時間、通学時間など6項目
⑥健康状態（質問7から10）：心身の健康状態と学生相談室利用状況など6項目
⑦大学生活全般（質問11）：本学選択の理由、学生生活の充実度、本学への希望や要望など6項目
⑧卒業後の進路（質問12）：卒業後の進路について2項目
⑨学年と出身地

調査票は平成12年9月下旬に配布し、10月中旬までに回収された。学部1年生から2年生までは授業を通じて配布したが、実習中の3、4年生については、郵送法を用いた。

2）調査対象

本調査は、本学の学部1年生から4年生までの318名を対象に悉皆調査を実施したものである。1年生59人中女子57名、男子2名、2年生67名中女子64名、男子3名、3年生60名*、編入3年30名、4年生72名、編入4年30名は全員が女子である。学年不明の4名を除く、学年別の回収率は、1年生で71.2%、2年生で79.1%、3年生が56.7%、編入3年生が86.7%、4年生62.5%で、編入4年生が73.3%であった（表Ⅰ－1）。学年不明の4名を含めた平均回収率は約71.1%であった。特に2年生や編入3年生の回収率は高

かったが、調査時に実習中であった3年生や編入4年生の回収率はやや低くなっている。第1回目の調査では、平均回収率が78.9%、第2回目の調査でも78.9%であり、それらと比較すると今回は低めの結果になった。

その理由として考えられることは、まず学生数の増加がある。これまでの2回の調査ではともに232名の学生数であったが、今回はその1.37倍にあたる318名の学生が調査対象になった。また、この配布期間と看護実習時期の重なりという問題があげられる。第1回目は学年によって配布時期を分けており、また前回は11月に配布している。今回は9月中旬から10月中旬にかけて実施したが、実習に重なった影響は否めない。そのような状況のなかで70%以上の回収率を達成できたことはむしろ高く評価すべきであろうか。配布時期に関しては、今後検討していく余地があろう。

なお、本報告書における統計的処理は全て有効回答数のみとした。図表中の数字は人数であり、（　）内は%を示している。

＊　3年生、4年生とあるのは、一般入学試験及び推薦入学試験により1年次より入学した学生を指し、編入3年生、編入4年生とあるのは、編入学試験により3年次より入学した学生を指す。

表 I−1　学年別にみた調査票の配布数、回収数、回収率

		配布数	回収数	回収率（%）
学年	1年	59(2)	42	(71.2)
	2年	67(3)	53	(79.1)
	3年	60	34	(56.7)
	編入3年	30	26	(86.7)
	4年	72	45	(62.5)
	編入4年	30	22	(73.3)
合計		318 (5)	222	

配布数の（　）内は男子の数

Ⅱ　結果と考察

1．住居について

1）住居形態

表1―1に示したように、回答の得られた 224 名のうち、親元からの「自宅通学者」143 名（63.8%）、親元から離れ「アパート・マンションで暮らす者」74 名（33.1%）、「下宿生」4名（1.8%）、「その他」として親戚宅あるいは学生会館に居住する者3名（1.3%）であった。

本学の学生寮は 1999 年3月をもって全面廃止となったため、過去2回の調査結果とは単純に比較できないが、自宅通学者の割合は確実に増加している。1990 年の調査では、「自宅通学者」が 25%程度、1996 年の調査では 38%である。これを学生の出身地との関係からみると、年々自宅からの通学が可能な関東近県出身者の割合が増加しており、近年の全国の看護系大学の増加や経済不況の長期化にともない、本学の入学生の出身地にも変化が見られており、それらが本結果の背景にあると考えられる。1998 年に実施された文部省による「平成 10 年度学生生活調査」によると、大学昼間部の場合、自宅通学者 49.7%、親元から離れアパート・マンション、下宿で暮らす者 45%、学生寮に居住する者 5.3%と報告されており、本学の自宅通学者の割合はそれに比べて高くなっている。表1―2は現在の住居形態を学年別に示した。

表 1―1　現在の住居形態

	人数	(%)
自宅	143	(63.8)
下宿	4	(1.8)
アパート・マンション	74	(33.1)
その他	3	(1.3)
合計	224	(100.0)

表 1－2 現在の住居形態(学年別)

		自宅	下宿	アパート・マンション	その他	合計
学年	1年	34	2	4		40
		(85.0)	(5.0)	(10.0)		(100.0)
	2年	41		11	1	53
		(77.4)		(20.8)	(1.9)	(100.0)
	3年	17		17		34
		(50.0)		(50.0)		(100.0)
	編入3年	11	1	14		26
		(42.3)	(3.8)	(53.8)		(100.0)
	4年	27		18		45
		(60.0)		(40.0)		(100.0)
	編入4年	10	1	9	2	22
		(45.5)	(4.5)	(40.9)	(9.1)	(100.0)
合計		140	4	73	3	220
		(63.6)	(1.8)	(33.2)	(1.4)	(100.0)

2）下宿の住居状況

表1－3は下宿をしている学生の住居について示している。下宿をしている学生は非常に少なく、わずか4名（1.8%）であった。間取りについては、「4.5 畳」2名（50%）、「6畳」1名（25%）等であった。風呂、トイレについては「個人用を有するもの」がそれぞれ1名（25%）、「共用のもの」3名（75%）、キッチンは「個人用」、「共用」ともに2名ずつとなっていた。食事については、「2食付き」1名、「1食つき」1名、「食事なし」2名であった。

表 1－3 下宿の住居環境別利用者数(学年別)

人数

	間取り			風呂		トイレ		台所		食事		
	4.5畳	6畳	その他	個人	共同	個人	共同	個人	共同	2食	1食	無
学年												
1年		1	1	1	1	1	1	1	1	1		1
2年												
3年												
編入3年	1				1		1	1			1	1
4年												
編入4年	1				1		1		1			
合計	2	1	1	1	3	1	3	2	2	1	1	2

3）アパート・マンションの住居状況

アパート・マンションに居住していると回答した者 73 名のうち、「一人暮らし」の者 64 名（87.7%）、「同居人がいる」者 9 名（12.3%）であった。表 1 ― 4 は同居人の有無を学年別に示したものであり、高学年の者に同居人が多い傾向がみられた。

アパート・マンションの間取りについては、図 1 ― 1 のとおりである。「ワンルーム」31 名（42.5%）、「1 K～ 1 DK」31 名（42.5%）、「2 K～ 2 LDK」11 名（15.1%）、風呂の有無については、「個人用の風呂がある」者 72 名（97.3%）、「共用の風呂」及び「風呂無し」の者がそれぞれ 1 名（1.35%）であった。トイレについては 72 名（97.3%）が個人専用、2 名（2.7%）が共用、キッチンは全員が個人用を有していた。表 1 ― 5 は居住するアパート・マンションの間取りを学年別に示したものである。

前回調査結果と比べ、個人用の風呂やキッチンが付いているアパート・マンションに居住している者の割合が徐々に高くなっており（1990 年 70%、1996 年 90%）、若者のライフスタイルの変化に伴い、風呂無しや共用風呂、共用キッチン等が敬遠されるようになっている。

表 1－4 アパート・マンションの同居人の有無（学年別）

		いる	いない	合計
学年	1年		4	4
			(100.0)	(100.0)
	2年		11	11
			(100.0)	(100.0)
	3年	2	15	17
		(11.8)	(88.2)	(100.0)
	編入3年	2	12	14
		(14.3)	(85.7)	(100.0)
	4年	4	14	18
		(22.2)	(77.8)	(100.0)
	編入4年	1	8	9
		(11.1)	(88.9)	(100.0)
合計		9	64	73
		(12.3)	(87.7)	(100.0)

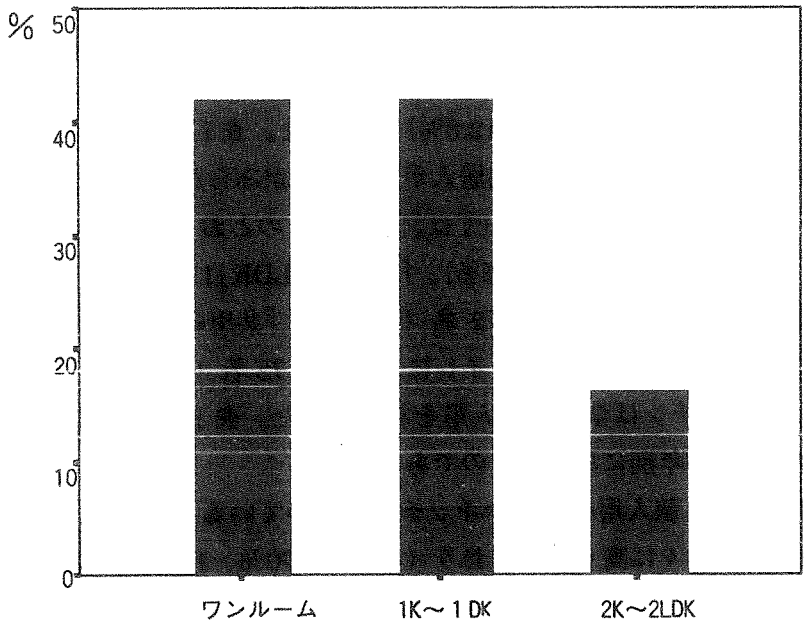

図 1－1 アパート・マンション 間取りについて

表 1－5 アパート・マンションの間取り（学年別）

		ワンルーム	1K～1DK	2K～2LDK	合計
学年	1年	2	2		4
		(50.0)	(50.0)		(100.0)
	2年	6	5		11
		(54.5)	(45.5)		(100.0)
	3年	7	8	2	17
		(41.2)	(47.1)	(11.8)	(100.0)
	編入3年	4	7	3	14
		(28.6)	(50.0)	(21.4)	(100.0)
	4年	9	5	4	18
		(50.0)	(27.8)	(22.2)	(100.0)
	編入4年	3	4	2	9
		(33.3)	(44.4)	(22.2)	(100.0)
合計		31	31	11	73
		(42.5)	(42.5)	(15.1)	(100.0)

4）住居の満足度

現在の住居に関する満足度については、「満足している」95 名（42.8%）、「満足していない」91 名（41.0%）、「どちらともいえない」36 名（16.2%）であった（図１－２）。

表１―６は学年別に住居の満足度を示したものである。編入生は学部生と比較して満足していない者が多い傾向が窺える。

満足していない理由を回答の多かった順に挙げると（複数回答）、有効回答数 91 名のなかで、「学校から遠い」57 名（62.6%）、「狭い」41 名（45.1%）、「家賃が高い」24 名（26.4%）となっていた。その他として挙げられた理由には、「門限がある」、「駅から遠い」、「ユニットバス」等があった（図１－３）。住居に満足していない理由を学年別にみると（表１－７）、編入生に「家賃が高い」という理由を挙げている者の割合が高い傾向がみられた。住居について満足していない者の割合も編入生に多かったが、編入生がこれまで就業していた医療施設等には寮を設置しているところが多く、住居費等が比較的安価であったことなどが住居に対する不満足感に影響しているのではないかと思われる。表１－８は住居形態別にみた満足度について示した。

図 1－2 現在の住居 満足度

表 1－6 現在の住居満足度（学年別）

		満足している	満足していない	どちらともいえない	合計
学年	1年	19	17	6	42
		(45.2)	(40.5)	(14.3)	(100.0)
	2年	24	17	12	53
		(45.3)	(32.1)	(22.6)	(100.0)
	3年	16	12	6	34
		(47.1)	(35.3)	(17.6)	(100.0)
	編入3年	10	12	4	26
		(38.5)	(46.2)	(15.4)	(100.0)
	4年	21	16	8	45
		(46.7)	(35.6)	(17.8)	(100.0)
	編入4年	5	17		22
		(22.7)	(77.3)		(100.0)
合計		95	91	36	222
		(42.8)	(41.0)	(16.2)	(100.0)

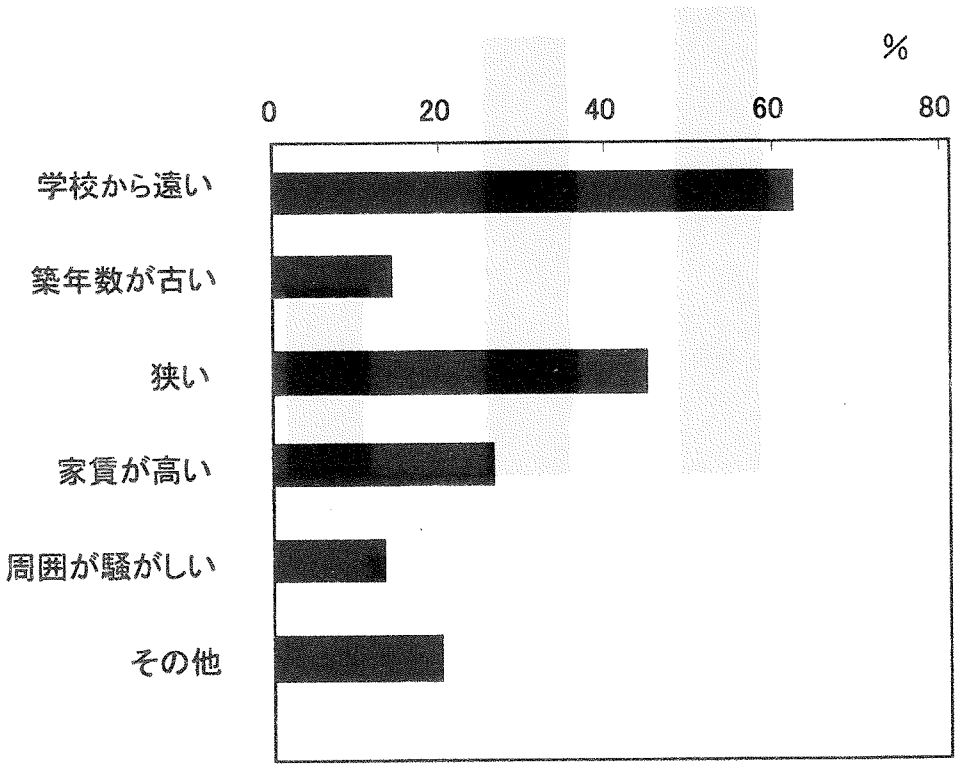

図 1－3 住居に満足していない理由

表 1－7 住居に満足していない理由(学年別)

学年	学校から遠い	築年数が古い	狭い	家賃が高い	周囲が騒がしい	その他
1年	12	2	9	2	1	2
	(21.1)	(15.4)	(22.0)	(8.3)	(8.3)	(11.1)
2年	12	3	7	2	0	3
	(21.1)	(23.1)	(17.1)	(8.3)		(16.7)
3年	8	0	4	3	4	2
	(14.0)		(9.8)	(12.5)	(33.3)	(11.1)
編入3年	5	3	10	7	1	2
	(8.8)	(23.1)	(24.4)	(29.2)	(8.3)	(11.1)
4年	12	2	3	4	3	3
	(21.1)	(15.4)	(7.3)	(16.7)	(25.0)	(16.7)
編入4年	8	3	8	6	3	6
	(14.0)	(23.1)	(19.5)	(25.0)	(25.0)	(33.3)
合計	57	13	41	24	12	18

表 1－8 現在の住居形態と現在の住居満足度との関連

		満足している	満足していない	どちらともいえない	合計
現在の住居形態	自宅	62	52	29	143
		(43.4)	(36.4)	(20.3)	(100.0)
	下宿	1	2	1	4
		(25.0)	(50.0)	(25.0)	(100.0)
	アパート・マンション	32	34	8	74
		(43.2)	(45.9)	(10.8)	(100.0)
	その他	1	2		3
		(33.3)	(66.7)		(100.0)
合計		96	90	38	224
		(42.9)	(40.2)	(17.0)	(100.0)

2．経済面について

1）1ヶ月平均の総支出額

学校納付金を除く1ヶ月平均の総支出額について、平均金額をみると「3～6万円未満」61名（28.2%）が最も多く、次いで「3万円未満」51名（23.6%）、「6～9万円未満」34名（15.7%）となっていた（図2―1）。学年別に比較してみると、表2―1のようになり、高学年になるほど総支出額が上昇している傾向がみうけられる。1999年に行われた日本私立看護系大学協会の「学生の生活向上に関する調査研究」の結果では、私立大学に通学する学生の1ヶ月平均の総支出額は、9.8（実習期間中）～10.3万円（実習期間外）と報告されており、本学学生の場合には平均すると9.3万円程度と推測され、同程度かやや少ない。

1ヶ月平均の総支出額を自宅通学者と自宅外通学者にわけて比較してみると、表2―2、図2―2のとおりである。自宅通学者の場合「3～6万円未満」が56名（40%）と最も多く、自宅外通学者では「15～18万円未満」20名（25.6%），「12～15万円未満」19名（24.4%）の順であった。

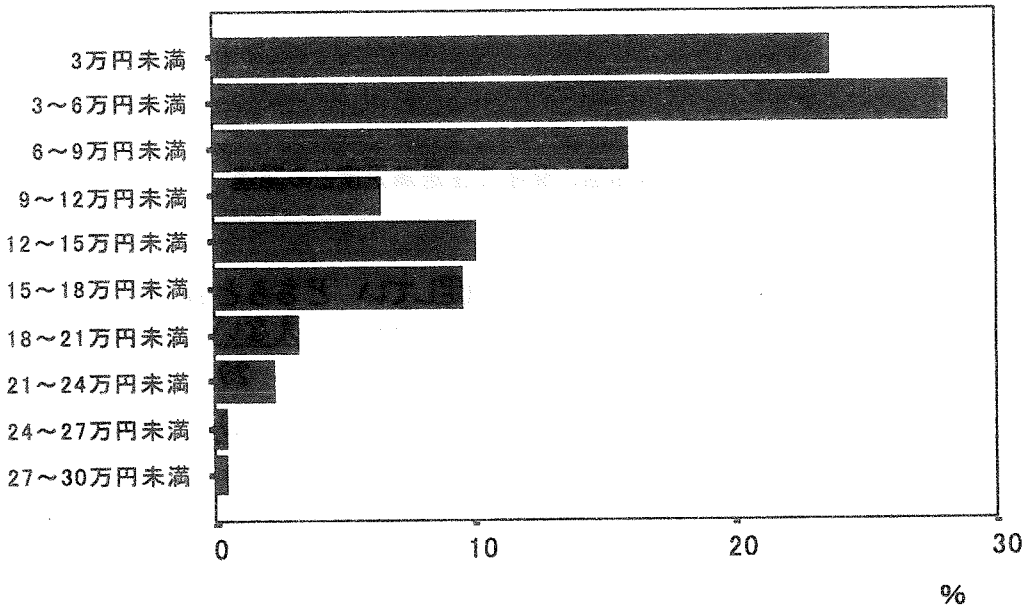

図 2―1 1ヶ月の総支出額

表 2－1 1ヶ月の総支出額(学年別)

		1年	2年	3年	編入3年	4年	編入4年	合計
1ヶ月の総支出額	3万円未満	15	16	6	5	8	1	51
		(37.5)	(30.8)	(18.2)	(20.8)	(17.8)	(4.5)	(23.6)
	3～6万円未満	11	17	6	4	17	6	61
		(27.5)	(32.7)	(18.2)	(16.7)	(37.8)	(27.3)	(28.2)
	6～9万円未満	10	10	6		4	4	34
		(25.0)	(19.2)	(18.2)		(8.9)	(18.2)	(15.7)
	9～12万円未満	2	4	2	5	1		14
		(5.0)	(7.7)	(6.1)	(20.8)	(2.2)		(6.5)
	12～15万円未満		2	4	5	9	2	22
			(3.8)	(12.1)	(20.8)	(20.0)	(9.1)	(10.2)
	15～18万円未満	2	1	4	1	5	7	20
		(5.0)	(1.9)	(12.1)	(4.2)	(11.1)	(31.8)	(9.3)
	18～21万円未満		2	3	1		1	7
			(3.8)	(9.1)	(4.2)		(4.5)	(3.2)
	21～24万円未満			2	2	1		5
				(6.1)	(8.3)	(2.2)		(2.3)
	24～27万円未満						1	1
							(4.5)	(0.5)
	27～30万円未満				1			1
					(4.2)			(0.5)
合計		40	52	33	24	45	22	216
		(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)

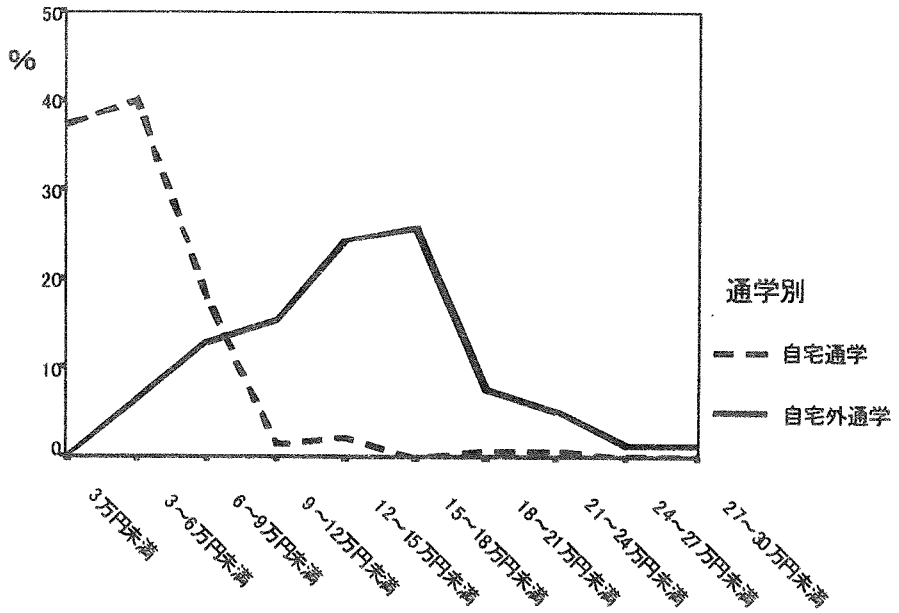

図 2－2 1ヶ月の総支出額(通学別)

表 2－2 自宅通学と自宅外通学の1ヶ月の総支出額

		自宅通学	自宅外通学	合計
1ヶ月の総支出額	3万円未満	52 (37.1)		52 (23.9)
	3～6万円未満	56 (40.0)	5 (6.4)	61 (28.0)
	6～9万円未満	25 (17.9)	10 (12.8)	35 (16.1)
	9～12万円未満	2 (1.4)	12 (15.4)	14 (6.4)
	12～15万円未満	3 (2.1)	19 (24.4)	22 (10.1)
	15～18万円未満		20 (25.6)	20 (9.2)
	18～21万円未満	1 (0.7)	6 (7.7)	7 (3.2)
	21～24万円未満	1 (0.7)	4 (5.1)	5 (2.3)
	24～27万円未満		1 (1.3)	1 (0.5)
	27～30万円未満		1 (1.3)	1 (0.5)
合計		140 (100.0)	78 (100.0)	218 (100.0)

2） 1ヶ月平均の食費

1ヶ月平均の食費（自宅通学生の場合には外食費）は、「1～2万円未満」72名（33.0%）、「1万円未満」66名（30.3%）、「2～3万円未満」46名（21.1%）の順に多く（表2－3）、これらを自宅通学者と自宅外通学者と比較してみると、表2－4に示すように自宅通学者では「1万円未満」が64名（45.1%）と最も多く、自宅外通学者の場合には「2～3万円未満」34名（43.6%）、次いで「3～4万円未満」21名（26.9%）となっていた。「平成10年度学生生活調査（文部省）」によると、国立大学昼間部の自宅通学者の1ヶ月平均の食費は27,200円、自宅外通学者（寮生は除く）では30,300円と報告されている。なお本学における過去の調査では、1990年の場合、当時全寮制によって一律に食費が徴収されていたため、「3万～3万5千円」という回答が最も多かったが、全寮制の廃止に伴い1996年では「1～2万円未満」が38.8%、「2～3万円未満」30.3%であり、今回の調査結果ではやや減少傾向が見られたのは、自宅通学者の増加によるものと思われる。

表 2－3 1ヶ月平均の食費(学年別)

		1万円未満	1～2万円未満	2～3万円未満	3～4万円未満	4～5万円未満	5万円以上	合計
学年	1年	14	22	4	2			42
		(33.3)	(52.4)	(9.5)	(4.8)			(100.0)
	2年	25	14	10	2	1		52
		(48.1)	(26.9)	(19.2)	(3.8)	(1.9)		(100.0)
	3年	7	9	6	7	3	1	33
		(21.2)	(27.3)	(18.2)	(21.2)	(9.1)	(3.0)	(100.0)
	編入3年	5	7	7	3	3		25
		(20.0)	(28.0)	(28.0)	(12.0)	(12.0)		(100.0)
	4年	10	15	11	7	2		45
		(22.2)	(33.3)	(24.4)	(15.6)	(4.4)		(100.0)
	編入4年	5	5	8	2	1		21
		(23.8)	(23.8)	(38.1)	(9.5)	(4.8)		(100.0)
合計		66	72	46	23	10	1	218
		(30.3)	(33.0)	(21.1)	(10.6)	(4.6)	(0.5)	(100.0)

表 2－4 通学別の食費

		自宅通学	自宅外通学	合計
食費	1万円未満	64	2	66
		(45.1)	(2.6)	(30.0)
	1～2万円未満	62	11	73
		(43.7)	(14.1)	(33.2)
	2～3万円未満	11	34	45
		(7.7)	(43.6)	(20.5)
	3～4万円未満	4	21	25
		(2.8)	(26.9)	(11.4)
	4～5万円未満	1	9	10
		(0.7)	(11.5)	(4.5)
	5万円以上		1	1
			(1.3)	(0.5)
合計		142	78	220
		(100.0)	(100.0)	(100.0)

3）自宅外通学生の１ヶ月平均の住居費

回答の得られた自宅外通学者79名の家賃、光熱水道費を含む１ヶ月平均の住居費は表２―５、図２－３のとおりである。「７～９万円未満」44名（55.7%）、「９～11万円未満」16名（20.3%）の順に多かった。1990年の調査結果では、46.7%の学生が「７～10万円程度」、1996年では56.9%の学生が「８～10万円程度」と回答しており、大きな変化はみられていない。1998年の「平成10年度学生生活調査（文部省）」によると、国立大学昼間部の自宅外通学者の１ヶ月住居・光熱費の平均は47,200円と報告されており、本学の場合にはそれよりもかなり高い。本学が東京都心部に位置し、近辺の家賃が割高になっているためであろうと思われる。

表 2－5 学年別の住居費

		3万円未満	3～5万未満	5～7万未満	7～9万未満	9～11万未満	11万円以上	合計
学年	1年	1	1		4	1		7
		(14.3)	(14.3)		(57.1)	(14.3)		(100.0)
	2年	2			8	2		12
		(16.7)			(66.7)	(16.7)		(100.0)
	3年	1			12	3	1	17
		(5.9)			(70.6)	(17.6)	(5.9)	(100.0)
	編入3年	1		3	8	1	1	14
		(7.1)		(21.4)	(57.1)	(7.1)	(7.1)	(100.0)
	4年	1	1	2	7	7		18
		(5.6)	(5.6)	(11.1)	(38.9)	(38.9)		(100.0)
	編入4年		1	1	5	2	2	11
			(9.1)	(9.1)	(45.5)	(18.2)	(18.2)	(100.0)
合計		6	3	6	44	16	4	79
		(7.6)	(3.8)	(7.6)	(55.7)	(20.3)	(5.1)	(100.0)

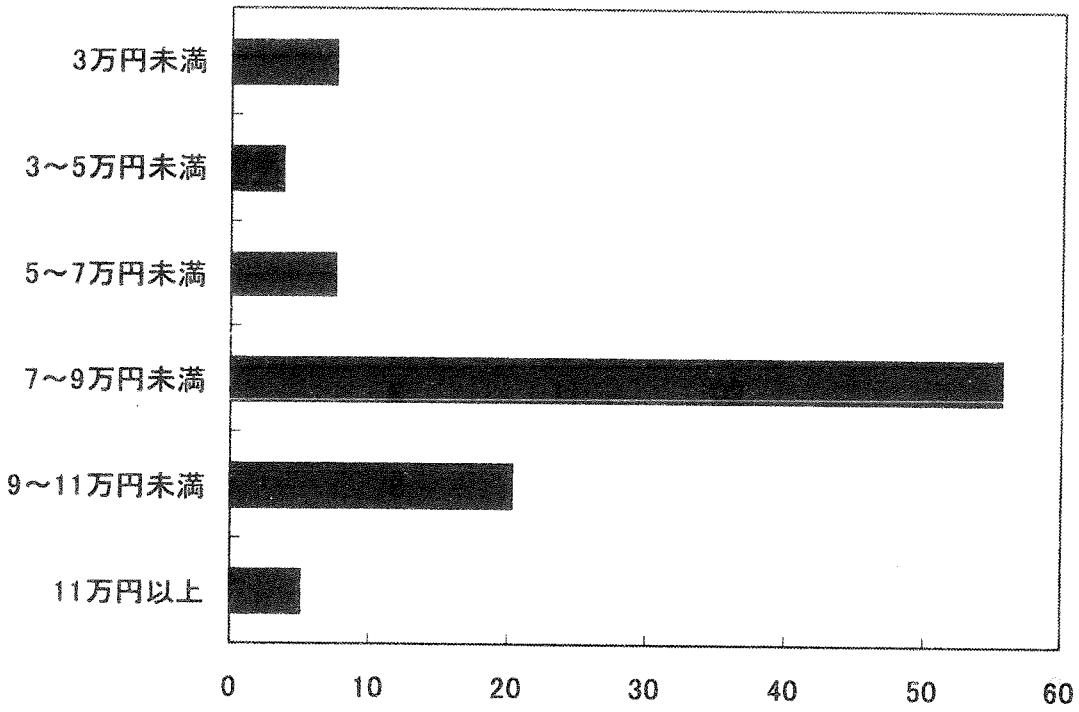

図 2－3 自宅外通学者の住居費

4．1ヶ月平均の勉学費

学納金を除いた書籍、文具、コピー等に要する1ヶ月平均の勉学費は、回答数の多かった順に「5千円未満」139名（63.2%）、「5千～1万円未満」62名（28.2%）、「1～1万5千円未満」10名（4.5%）であった（表2－6）。これらの勉学費を学年別にみてみると、学年が上がるにしたがって勉学費も高くなる傾向がみられた。

表 2－6 学年別の勉学費

		5千円未満	5千～1万円未満	1～1万5千円未満	1万5千～2万円未満	2万円以上	合計
学年	1年	30	9	1		1	41
		(73.2)	(22.0)	(2.4)		(2.4)	(100.0)
	2年	46	6	1			53
		(86.8)	(11.3)	(1.9)			(100.0)
	3年	20	11	3			34
		(58.8)	(32.4)	(8.8)			(100.0)
	編入3年	10	8	3	4		25
		(40.0)	(32.0)	(12.0)	(16.0)		(100.0)
	4年	23	16	2	4		45
		(51.1)	(35.6)	(4.4)	(8.9)		(100.0)
	編入4年	10	12				22
		(45.5)	(54.5)				(100.0)
合計		139	62	10	8	1	220
		(63.2)	(28.2)	(4.5)	(3.6)	(0.5)	(100.0)

5） 1ヶ月平均の娯楽・嗜好品費

煙草、酒、レジャー等を含む1ヶ月平均の娯楽・嗜好品費の平均金額は、回答数の多かった順に、「5千～1万円未満」68名（31.6%）、「1～1万5千円未満」49名（22.8%）、「5千円未満」43名（20.0%）となっていた（表2－7）。

表 2－7 学年別の娯楽･嗜好品費

		5千円未満	5千～1万円未満	1～1万5千円未満	1万5千～2万円未満	2万円以上	合計
学年	1年	12	13	7	7	2	41
		(29.3)	(31.7)	(17.1)	(17.1)	(4.9)	(100.0)
	2年	18	12	10	7	5	52
		(34.6)	(23.1)	(19.2)	(13.5)	(9.6)	(100.0)
	3年	1	13	10	4	4	32
		(3.1)	(40.6)	(31.3)	(12.5)	(12.5)	(100.0)
	編入3年	4	7	7	5	1	24
		(16.7)	(29.2)	(29.2)	(20.8)	(4.2)	(100.0)
	4年	6	14	10	8	7	45
		(13.3)	(31.1)	(22.2)	(17.8)	(15.6)	(100.0)
	編入4年	2	9	5	5		21
		(9.5)	(42.9)	(23.8)	(23.8)		(100.0)
合計		43	68	49	36	19	215
		(20.0)	(31.6)	(22.8)	(16.7)	(8.8)	(100.0)

6） 1ヶ月平均の習い事の費用

1ヶ月平均の習い事に要する費用は、「5千円未満」162 名(81.4%)、「5千～1万円未満」16名（8.0%）、「1～1万5千円未満」12名（6.0%）であった（表2－8）。

表 2－8 学年別の習い事の費用

		5千円未満	5千～1万円未満	1～1万5千円未満	1万5千～2万円未満	2万円以上	合計
学年	1年	29	4		2		35
		(82.9)	(11.4)		(5.7)		(100.0)
	2年	39	5	2	3		49
		(79.6)	(10.2)	(4.1)	(0.6)		(100.0)
	3年	25	2	2	1	1	31
		(80.6)	(6.5)	(6.5)	(3.2)	(3.2)	(100.0)
	編入3年	16	3	2	1		22
		(72.7)	(13.6)	(9.1)	(4.5)		(100.0)
	4年	34	2	5			41
		(82.9)	(4.9)	(12.2)			(100.0)
	編入4年	19		1	1		21
		(90.5)		(4.8)	(4.8)		(100.0)
合計		162	16	12	8	1	199
		(81.4)	(8.0)	(6.0)	(4.0)	(0.5)	(100.0)

7）１ヶ月平均の通学費

１ヶ月平均の通学費は、「５千～１万円未満」74 名（33.6%）、「１～１万５千円未満」43 名（19.5%）、「５千円未満」39 名（17.7%）、「０円（徒歩あるいは自転車）」29 名（13.2%）の順に多かった（表２―９）。「１万５千円～２万円未満」と回答した者が 16 名（7.3%）もみられ、かなりの遠距離通学を行っていると推測される。1990 年の調査では、「０円」16.2%、「１千～８千円未満」59.9%、1996 年では「０円」12.2%、「１千～９千円未満」61.5%であり、徐々にではあるが通学費は増加傾向にある。図２－４に自宅通学者と自宅外通学者別の通学費を示した。自宅通学者の 10%以上に２万円以上の通学費を要する者がいることがわかる。

表 2－9 学年別の通学費

		0円	5千円未満	5千～1万円未満	1～1万5千円未満	1万5千～2万円未満	2万円以上	合計
学年	1年	2	10	11	7	5	6	41
		(4.9)	(24.4)	(26.8)	(17.1)	(12.2)	(14.6)	(100.0)
	2年	2	7	24	13	3	4	53
		(3.8)	(13.2)	(45.3)	(24.5)	(5.7)	(7.5)	(100.0)
	3年	6	6	10	11		1	34
		(17.6)	(17.6)	(29.4)	(32.4)		(29)	(100.0)
	編入3年	8	3	5	5	3	1	25
		(32.0)	(12.0)	(20.0)	(20.0)	(12.0)	(4.0)	(100.0)
	4年	7	8	17	6	3	4	45
		(15.6)	(17.8)	(37.8)	(13.3)	(6.7)	(8.9)	(100.0)
	編入4年	4	5	7	1	2	3	22
		(18.2)	(22.7)	(31.8)	(4.5)	(9.1)	(13.6)	(100.0)
合計		29	39	74	43	16	19	220
		(13.2)	(17.7)	(33.6)	(19.5)	(7.3)	(8.6)	(100.0)

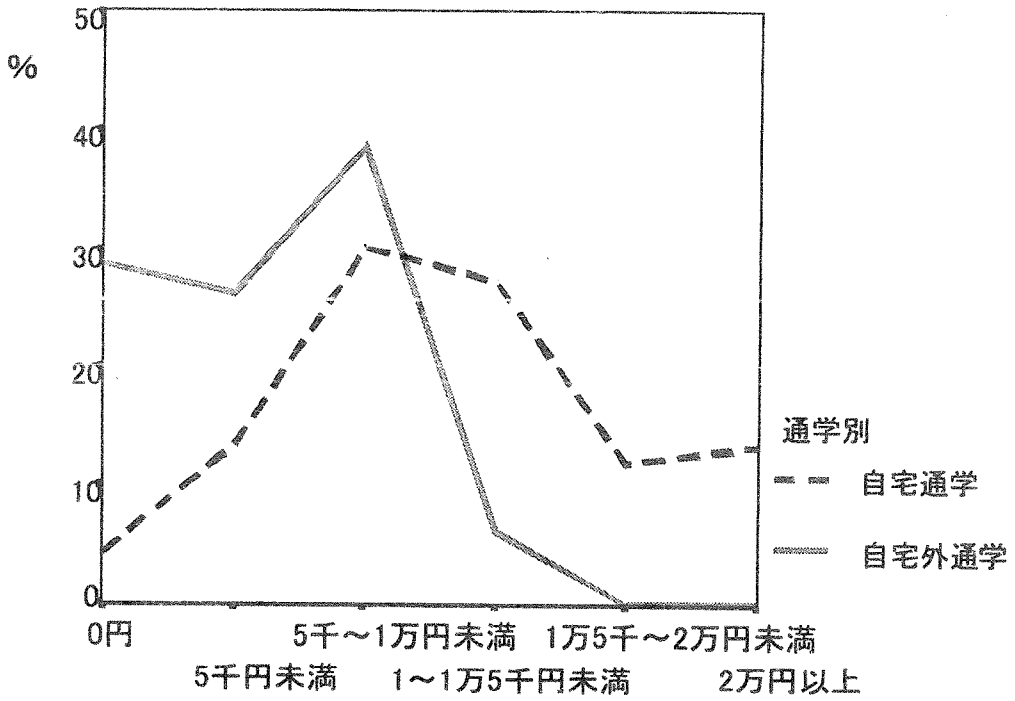

図 2－4 通学別の通学費

8） 1ヶ月平均の通信費

これまでの調査では通信費にかかわる調査項目は設けられていなかったが、ここ数年にみられる携帯電話やインターネット等の普及によって当調査項目を追加した。携帯電話及びインターネット契約・接続料等を含む1ヶ月平均の通信費の平均額は、表2－10に示した。「5千～1万円未満」が85名(38.5%)と最も多く、「1～1万5千円未満」62名(28.1%)、「千～5千円未満」40 名（18.1%）の順となっていた。1ヶ月に2万円以上を支出している者も4.6%みられ、1ヶ月の総支出額に占める割合もかなり大きいのではないかと推測される。

表 2－10 学年別の通信費

		千円未満	千~5千円未満	5千~1万円未満	1~1万5千円未満	1万5千~2万円未満	2万~2万5千円未満	2万5千~3万円未満	合計
学年	1年	1	12	16	11	1	1		42
		(2.4)	(28.6)	(38.1)	(26.2)	(2.4)	(2.4)		(100.0)
	2年	1	10	24	10	6	1	1	53
		(1.9)	(18.9)	(45.3)	(18.9)	(11.3)	(1.9)	(1.9)	(100.0)
	3年		5	7	17	3	2		34
			(14.7)	(20.6)	(50.0)	(8.8)	(5.9)		(100.0)
	編入3年		3	10	6	5	1		25
			(12.0)	(40.0)	(24.0)	(20.0)	(4.0)		(100.0)
	4年	1	4	21	14	2	3		45
		(2.2)	(8.9)	(46.7)	(31.1)	(4.4)	(6.7)		(100.0)
	編入4年		6	7	4	4	1		22
			(27.3)	(31.8)	(18.2)	(18.2)	(4.5)		(100.0)
合計		3	40	85	62	21	9	1	221
		(1.4)	(18.1)	(38.5)	(28.1)	(9.5)	(4.1)	(0.5)	(100.0)

9）家族等からの1ヶ月平均の援助額

1ヶ月に家族等から受けている学納金を除く金銭的援助額の平均について、「3万円未満」111名（52.4%）、「3～5万円未満」28名（13.2%）、「15～17万円未満」16名（7.5%）の順に多かった（表2－11）。自宅通学者と自宅外通学者別に示したものが図2－5である。自宅通学者の場合「3万円未満」と回答した者が70%以上、自宅外通学者の場合には「3万円未満」から「25 万円以上」まで大きな幅があったが、「15～17 万円未満」と回答した者が約20%と最も多かった。家族による経済状況の差が拡大傾向にあるようだ。1996年の調査では、自宅外通学者の家族等からの援助額は、「5～6万円」と回答した者が29.3%と最も多く、家族の負担は増加傾向にあると思われる。なお「平成 10 年度学生生活調査（文部省）」によると、大学昼間部の場合（自宅通学者・自宅外通学者を含む）の1ヶ月あたり家族からの援助額は約12万5千円であり、奨学金制度のおかげもあってか本学学生家族の経済的負担は相対的に低く抑えられているようだ。

表 2－11 家族からの援助額(学年別)

		1年	2年	3年	編入3年	4年	編入4年	合計
家族からの援助額	3万円未満	28 (68.3)	33 (64.7)	10 (32.3)	17 (70.8)	17 (38.6)	6 (28.6)	111 (52.4)
	3～5万円未満	6 (14.6)	7 (13.7)	3 (9.7)	1 (4.2)	9 (20.5)	2 (9.5)	28 (13.2)
	5～7万円未満	1 (2.4)	2 (3.9)	3 (9.7)	1 (4.2)	2 (4.5)	2 (9.5)	11 (5.2)
	7～9万円未満	1 (2.4)	3 (5.9)	1 (3.2)		1 (2.3)	2 (9.5)	8 (3.8)
	9～11万円未満	2 (4.9)	1 (2.0)	2 (6.5)	1 (4.2)	2 (4.5)	2 (9.5)	10 (4.7)
	11～13万円未満		1 (2.0)	2 (6.5)	3 (12.5)	4 (9.1)		10 (4.7)
	13～15万円未満	1 (2.4)	1 (2.0)	3 (9.7)		1 (2.3)	3 (14.3)	9 (4.2)
	15～17万円未満	2 (4.9)	3 (5.9)	2 (6.5)		6 (13.6)	3 (14.3)	16 (7.5)
	17～19万円未満			3 (9.7)				3 (1.4)
	19～21万円未満			1 (3.2)		2 (4.5)	1 (4.8)	4 (1.9)
	21～23万円未満			1 (3.2)				1 (0.5)
	25万円以上				1 (4.2)			1 (0.5)
	合計	41 (100.0)	51 (100.0)	31 (100.0)	24 (100.0)	44 (100.0)	21 (100.0)	212 (100.0)

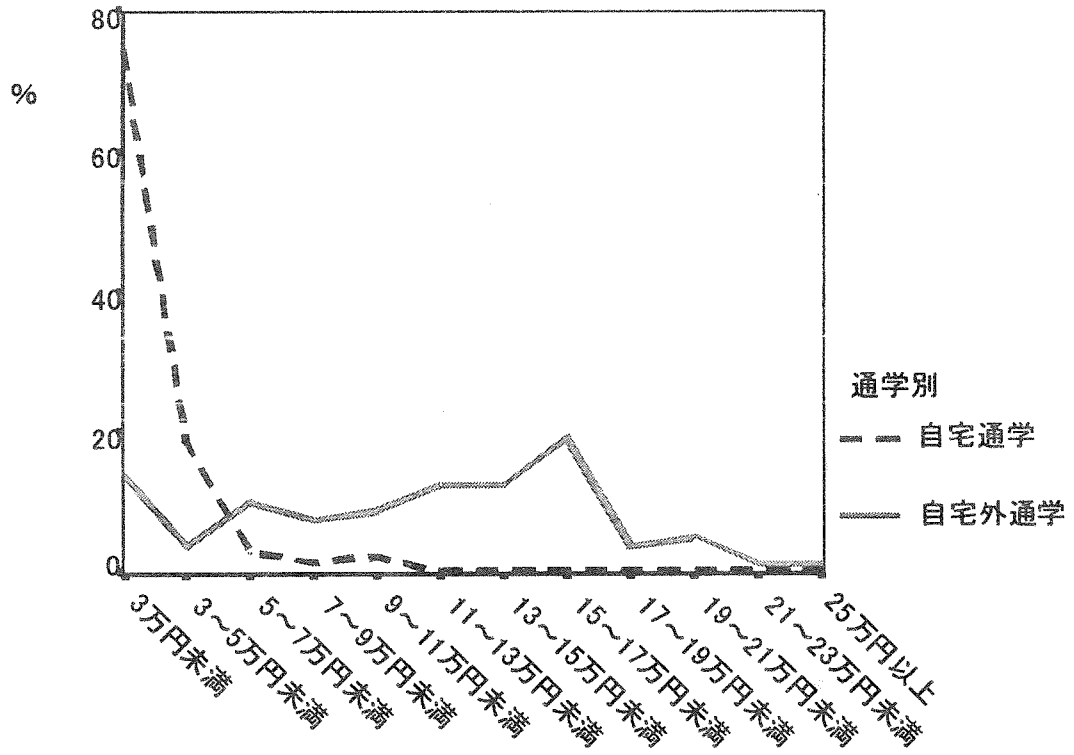

図 2－5 家族からの援助額(通学別)

10) 奨学金の受給状況

219 名の回答者のうち、何らかの奨学金を「受けている者」107 名 (48.9%)、「受けていない者」112 名 (51.1%) であった。表 2 －12 に学年別の奨学金受給状況を示した。受給を受けている奨学金の種別についてみてみると (表 2 －13、複数回答)、「日本育英会」52 名 (48.6%)、「日本赤十字社都道府県支部及び赤十字病院関係」35 名 (32.7%)、「日本赤十字社医療センター」21 名 (19.7%) であった。その他の内訳をみてみると、「東京都」、「日本赤十字看護大学同窓会」、「居住している市の奨学基金」等であった。

前回調査時の奨学金受給者割合は、1990 年 73.5%、1996 年 76.1%であったのが、今回の調査では 48.9%に減少していた。「平成 10 年度学生生活調査 (文部省)」によると、私立大学昼間部の奨学金受給者の割合は 22.4%であり、本学の場合にはその 2 倍以上となってはいるものの、減少が著しい。特に、受給している奨学金の種類による変化をみると、日本育英会の奨学金受給者は 1990 年 8.5%、1996 年 5.5%、2000 年 48.6%と大きく増加している一方で、日本赤十字社都道府県支部及び赤十字病院関係は 1990 年 38.5%、1996 年 36.3%、2000 年 32.7%と若干の減少がみられ、日本赤十字社医療センター貸費については

1990年25.5%、1996年31.8%であったのが2000年には19.7%と急激に減少している。

赤十字社関連の奨学金受給者の減少の背景には、学生の奨学金に対する考え方に変化があるようである。最近は首都圏出身の入学生が増加し、応募条件に該当する学生が減少していること、また、奨学金を受給することによって卒業後の進路が狭められる可能性を嫌い、応募をためらう傾向が出てきていると思われる。

表 2－12 学年別の奨学金受給状況

		有	無	合計
学年	1年	14	27	41
		(34.1)	(65.9)	(100.0)
	2年	26	27	53
		(49.1)	(50.9)	(100.0)
	3年	21	12	33
		(63.6)	(36.4)	(100.0)
	編入3年	12	14	26
		(46.2)	(53.8)	(100.0)
	4年	24	20	44
		(54.5)	(45.5)	(100.0)
	編入4年	10	12	22
		(45.5)	(54.5)	(100.0)
合計		107	112	219
		(48.9)	(51.1)	(100.0)

表 2－13 学年別の奨学金受給状況（複数回答）

	日本赤十字社医療センター	赤十字社支部および赤十字病院	日本育英会	その他
1年	1	3	8	4
2年	1	10	14	6
3年	9	9	8	1
編入3年	0	4	6	4
4年	10	8	8	3
編入4年	0	1	8	3
合計	21(19.7)	35(32.7)	52(48.6)	21(19.7)

11) ローン・クレジット等のトラブル

ローン、クレジット等のトラブルに巻き込まれた経験について尋ねたところ、6名(2.7%)が「ある」と回答した。1990年、1996年の調査では1%程度の学生がトラブルに巻き込まれたことがあり、若干増加しており、カードを使用する学生数の増加に伴ない、そのリスクについての教育も必要となってきている（表2—14)。

表 2—14 ローン・クレジット等のトラブル(学年別)

		ある	ない	合計
学年	1年		41	41
			(100.0)	(100.0)
	2年	1	52	53
		(1.9)	(98.1)	(100.0)
	3年	2	31	33
		(6.1)	(93.9)	(100.0)
	編入3年	1	25	26
		(3.8)	(96.2)	(100.0)
	4年	1	43	44
		(2.3)	(97.7)	(100.0)
	編入4年	1	21	22
		(4.5)	(95.5)	(100.0)
合計		6	213	219
		(2.7)	(97.3)	(100.0)

3．アルバイトについて

1）アルバイト経験の有無

大学に入学してからのアルバイト経験の有無については、「経験あり」211 名(93.4%)、「経験なし」13 名（5.8%）であり、学年問わず、ほとんどの学生が何らかのアルバイト経験を有していた（表3－1)。「平成 10 年度学生生活調査（文部省)」では、大学昼間部学生の場合 78%がアルバイト経験を有しており、本学の場合にはそれを上回っていた。また、「学生の生活向上に関する調査研究（1999 年度日本私立看護系大学協会)」による「実習期間外」のアルバイト経験を有する者の割合（64.7%）と比較しても、本学の学生はアルバイトを行った経験をもつ者の割合が高い。

表 3－1 アルバイトの経験(学年別)

		経験あり	経験なし	合計
学年	1年	37	5	42
		(88.1)	(11.9)	(100.0)
	2年	51	2	53
		(96.2)	(3.8)	(100.0)
	3年	32	1	33
		(97.0)	(3.0)	(100.0)
	編入3年	23	3	26
		(88.5)	(11.5)	(100.0)
	4年	44		44
		(100.0)		(100.0)
	編入4年	20	2	22
		(90.9)	(9.1)	(100.0)
合計		207	13	220
		(94.1)	(5.9)	(100.0)

2）アルバイト実施時期

大学入学以来、いつアルバイトを行っていたかについては、図3－1に示した。最も多かった回答は「長期休暇中及び授業期間いつも」92 名（40.7%）であり、順に「授業期間中ときどき」40 名（17.7%)、「授業期間中いつも」28 名（12.4%)、「長期休暇中のみ」14 名（6.2%)、「授業，実習期間いつも」11 名（4.9%)、「長期休暇中及び授業期間ときどき」10 名（4.4%)、「授業期間中の土日と長期休暇中」6 名（2.6%)、「その他」9 名（4%)、無回答 16 名（7.1%）となっていた。「長期休暇中及び授業期間いつも」と「授業期間中いつも」と回答した者を合わせると 53.1%の学生が年間を通して恒常的にアルバイトに従事していることがわかる。この割合は、「平成 10 年度学生生活調査（文部省)」の大学昼間部学

生の場合の 76.8%と比較すると少ないが、看護系大学の学生を対象とした「学生の生活向上に関する調査研究（1999 年度日本私立看護系大学協会）」では、実習期間外に常時アルバイトに従事している割合は 27.5%であり、本学の学生の場合その約 2 倍となっている。また、本調査結果から、実習期間中であっても、4.9%の学生がアルバイトを行っていることが示され、学業及び健康両面への影響も危ぶまれる。

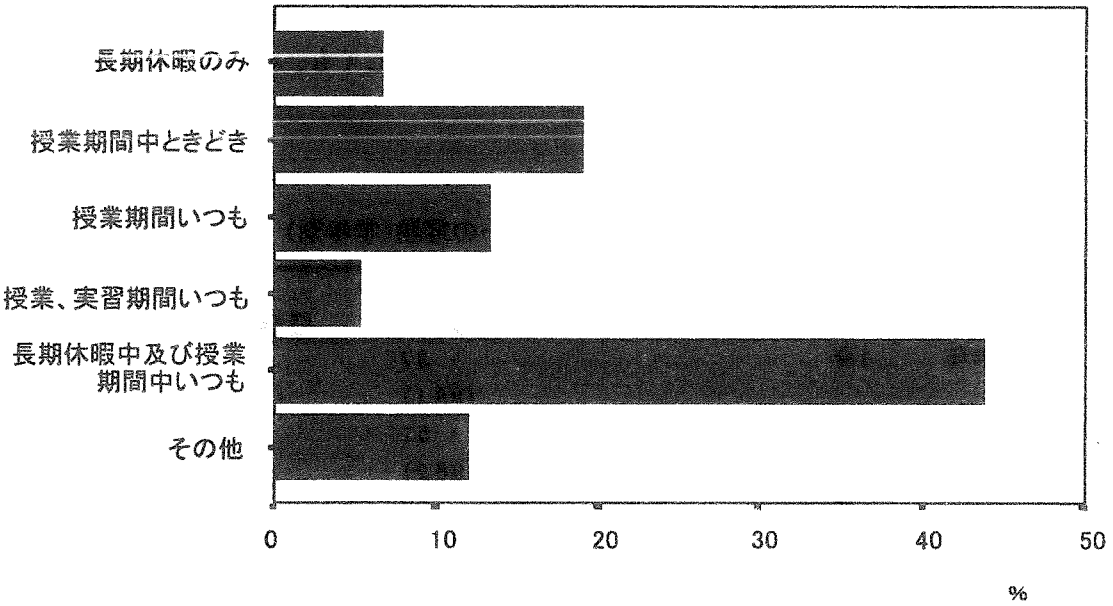

図 3－1 アルバイト期間

3）アルバイトの主な目的

アルバイトの主な目的として挙げられた理由を多い順に挙げると（複数回答）、「娯楽・嗜好品費を得る」174 名（77%）、「社会勉強」101 名（44.7%）、「生活費を得る「79 名（35%）、「友人を作る」58 名（25.7%）、「時間が空いているため」42 名（18.6%）、「学費及び勉学費を得る」36 名（15.9%）、「クラブ活動・習い事等の費用を得る」34 名（15%）、「高額商品を購入する」19 名（8.4%）、「その他」15 名（6.6%）と、必ずしも経済的な必要に迫られてのものではないものが多いが、中には生活費や学費などのためという回答もあり、親からの援助に頼れない学生の存在も無視できない。その他の回答の内訳には、「貯蓄」、「海外研修費用を得る」等がみられた。これらは前回調査と同様の傾向であった。

また、「学生の生活向上に関する調査研究（1999 年度日本私立看護系大学協会）」では、「欲しい物を購入したり、やりたいことをするために」という回答が約 63%、次いで「生活費、学費など」「アルバイト自体が楽しい」「社会勉強のため」という順になっており、本学の場合と類似していた。

4）授業期間中のアルバイト実施状況

授業期間中にアルバイトを行った経験のある学生 193 名のうち、1週間の平均アルバイト日数については表3－2、図3－2に示した。最も多かったのが「2～3日」136名（70.5%）であり、31名（16.1%）が「1日」、25名（13.0%）が「4～5日」、1名（0.5%）が「6～7日」の順であった。前回に比べられるとアルバイトをする日数が増加しているようだ。1回の平均アルバイト時間は、「4～5時間未満」と回答した者が67名（34.7%）と最も多く、次いで「6時間以上」40名（20.7%）、「5～6時間未満」39名（20.2%）、「3～4時間未満」28名（14.5%）であった（図3－3）。前回と比べると時間数も増加傾向にある。

1時間あたりの平均アルバイト賃金は図3－4のとおりである。「800～1,000円未満」と回答した者が97名（50.8%）と最も多く、「1,000～1,200円未満」32名（16.8%）、「600～800円未満」20名（10.5%）、「1,200～1,400円未満」14名（7.3%）という順であった。「2,000円以上」と回答した者5名のうちの最高賃金は3,000円であった。

また、授業期間中の1ヶ月のアルバイトによる平均的な収入額は図3－5に示した。「3～4万円未満」が39名（20.3%）、「5～6万円未満」34名（17.7%）、「2～3万円未満」33名（17.2%）、「4～5万円未満」30名（15.6%）、「6～7万円未満」19名（9.9%）の順であった。1ヶ月のアルバイト収入が 10 万円以上と回答した者も4名（2.1%）みられた。

授業期間中のアルバイトの職種としては、次のとおりであった（複数回答）。「接客業（ウエイター・ウエイトレス等を含む）」124名（64.2%）で、次の「販売業」26名（13.5%）を加えると 150 名（77.7%）にのぼる。その他には、「看護婦（士）・看護助手・ベビーシッター」25名（13%）、「事務的職種」17名（8.8%）、「家庭教師」16名（8.3%）。「その他」と回答した25名（13%）の内訳をみると、「塾講師・予備校チューター」6名（3.1%）、「老人ホーム等での介護・ヘルパー」5名（2.6%）、「歯科助手」4名（2.1%）、「助産婦」2名（1%）等となっていた。

看護婦（士）や助産婦などのアルバイトをしているのは、すでにそうした資格をもつ編入生であり、平均アルバイト資金も他の職種よりも高いと思われる。

表 3－2 授業期間中の1週間の平均アルバイト日数(学年別)

		1日	2～3日	4～5日	6～7日	合計
学年	1年	5	26	5		36
		(13.9)	(72.2)	(13.9)		(100.0)
	2年	1	39	7		47
		(2.1)	(83.0)	(14.9)		(100.0)
	3年	3	24	4		31
		(9.7)	(77.4)	(12.9)		(100.0)
	編入3年	8	10			18
		(44.4)	(55.6)			(100.0)
	4年	7	30	5	1	43
		(16.3)	(69.8)	(11.6)	(2.3)	(100.0)
	編入4年	6	7	3		16
		(37.5)	(43.8)	(18.8)		(100.0)
合計		30	136	24	1	191
		(15.7)	(71.2)	(12.6)	(0.5)	(100.0)

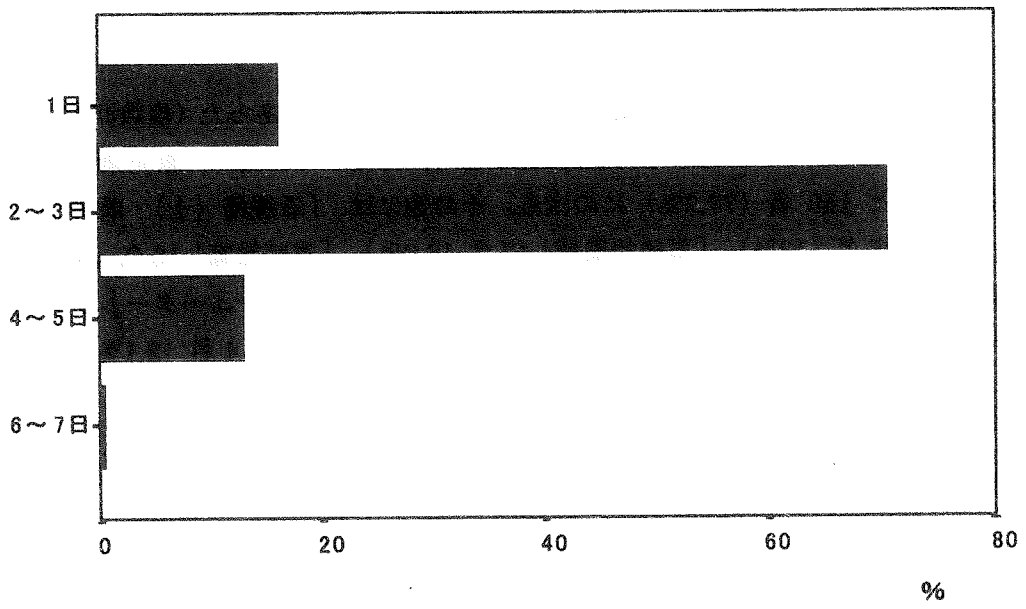

図 3－2 授業期間中の1週間の平均アルバイト日数

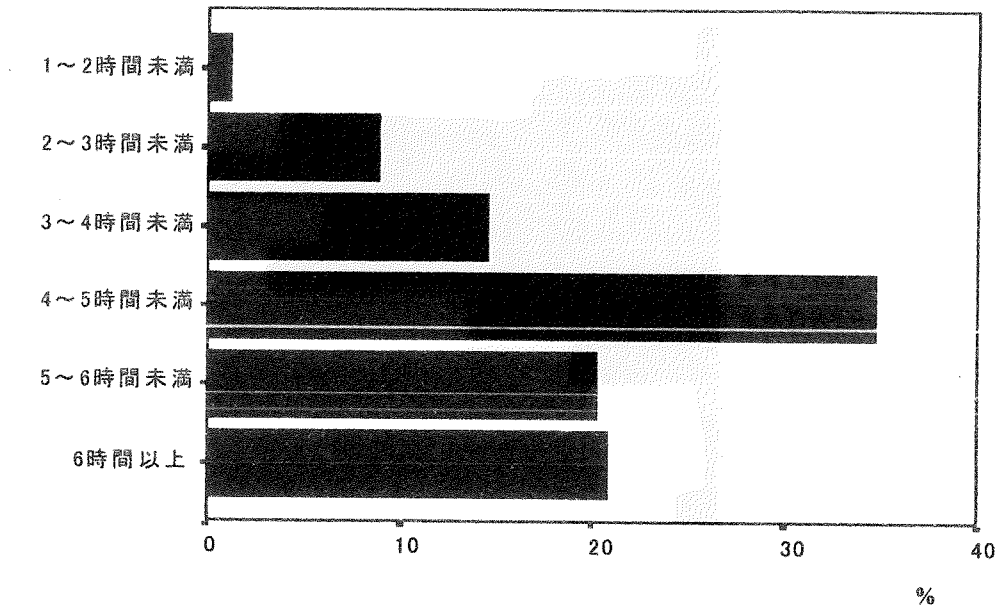

図 3－3 授業期間中の1回のアルバイト時間

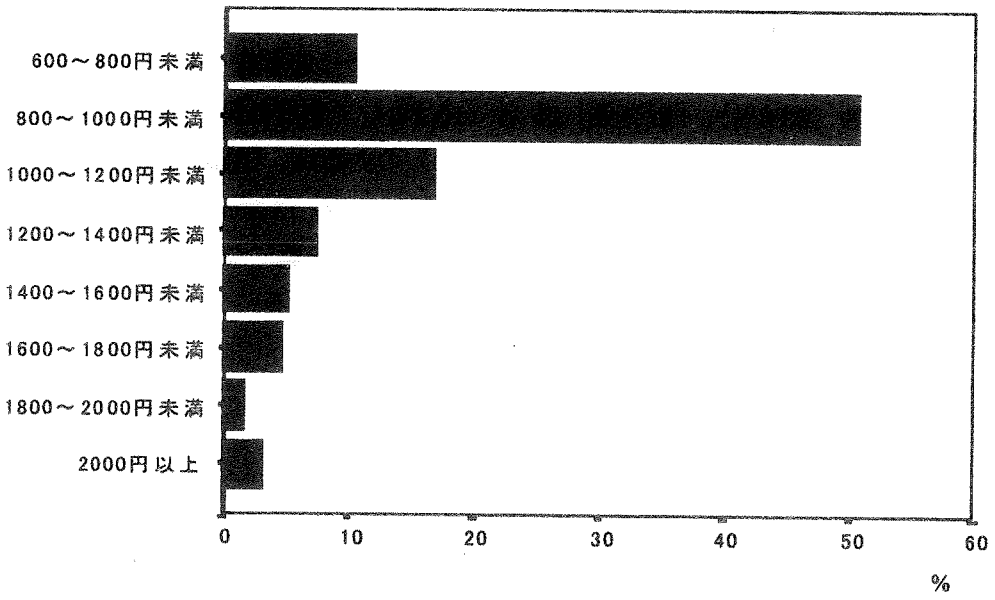

図 3－4 授業期間中の1時間のアルバイト賃金

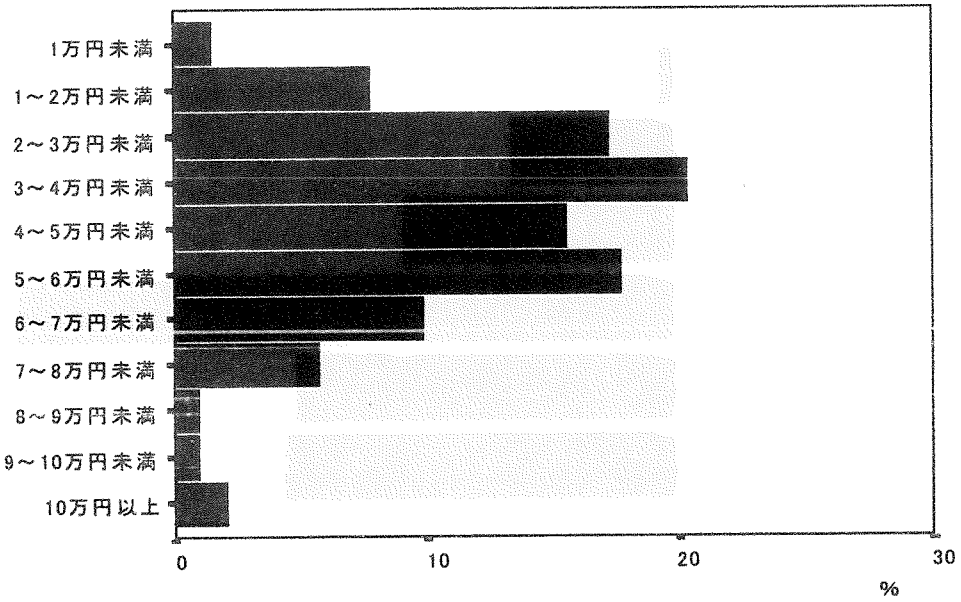

図 3－5 授業期間中の１ヶ月のアルバイト収入額

5）長期休暇中のアルバイト実施状況

長期休暇中のアルバイト実施状況についてみたところ、長期休暇中のアルバイト経験のある学生 165 名の職種は次のとおりである。最も多く挙げられたのが「接客業（ウエイター・ウエイトレス等を含む)」98 名（59.4%)、次いで「看護婦（士)・看護助手・ベビーシッター」39 名（23.6%)、「販売業」25 名（15.2%)、「家庭教師」14 名（8.5%）の順となっていた。「その他」と回答した 22 名（13.3%）の内訳は、「塾講師・予備校チューター」5 名（3.0%)、「老人ホーム等での介護・ヘルパー」3 名（1.8%）等であった。長期休暇中には若干「看護婦（士)・看護助手・ベビーシッター」の職につく者の割合が高く、大学での学習を生かしたアルバイトを選択しているものと思われる。

4．課外活動について

1）加入している学内・外のクラブ及び同好会

大学生の課外活動の減少傾向が指摘されて久しいが、本学においても同様の傾向が認められる。

今回の調査結果から学内・外の課外活動の参加状況を見ると、最も多かったのが、「最初から加入していない」84名(38.4%)、次いで「加入し、活動している」56名（25.6%)、「以前加入していたがやめた」45名（20.5%)、「加入のみで活動していない」34名（15.5%）の順であった（表4－1)。　学年別に比較してみると、「加入し、活動している」が最も多いのは1年生のみで、4年生を除くその他の学年では、最も多かったのが「最初から加入していない」であった。

学内の課外活動状況をまとめると（未登録含む)、体育系では水泳部44名、テニス部20名、バスケットボール部9名、バレーボール部2名、アメリカンフットボールサークル1名となっている。文化系では起きあがりこぼしの会（旧こぶしの会）17名、茶道部13名、ボランティアサークル・軽音楽サークル・書道部が各2名、赤十字奉仕団・車椅子ボランティアが各1名となっている。前回の調査では、加入あるいは加入していた学生は237名であったが、今回の結果では114名と半分以下に減少している。

一方、学外における課外活動の状況を見ると、加入あるいは加入していた学生は67名であり、主な活動は、テニスや歩好会等の体育系が37名、ボランティアなどの社会活動が18名、オーケストラやダンス・写真等が14名、その他が7名であった。主な交流大学は、早稲田大学、東京理科大学、東京大学などとなっている。

表 4－1 課外活動(学内外)の参加状況(学年別)

		加入し、活動している	加入のみで、活動していない	以前加入していたがやめた	最初から加入していない	合計
学年	1年	17	5	4	15	41
		(41.5)	(12.2)	(9.8)	(36.6)	(100.0)
	2年	12	3	16	21	52
		(23.1)	(5.8)	(30.8)	(40.4)	(100.0)
	3年	10	3	8	12	33
		(30.3)	(9.1)	(24.2)	(36.4)	(100.0)
	編入3年	3	8		15	26
		(11.5)	(30.8)		(57.7)	(100.0)
	4年	11	8	16	10	45
		(24.4)	(17.8)	(35.6)	(22.2)	(100.0)
	編入4年	3	7	1	11	22
		(13.6)	(31.8)	(4.5)	(50.0)	(100.0)
合計		56	34	45	84	219
		(25.6)	(15.5)	(20.5)	(38.4)	(100.0)

2）クラブ等の参加目的

(1)課外活動への参加

学生の課外活動の参加理由（複数回答）を見ると、これに該当する 136 名のうち、「楽しむため」が 95 名(69.9%)と最も多く、次いで「興味・関心があったから」81 名(59.6%)、「友人を得るため」68 名(50.0%)、「健康増進のため」45 名（33.1%）の順であった（表4－2)。これらの順位は、前回の調査結果と同様の傾向であった。

また、これを学年別にみると、全学年とも、「楽しむため」「興味・関心があったから」が上位を占めていたが、編入3年生だけは、全体の半数以上が「健康増進のため」をあげていたのは、編入生の平均年齢が高いということも関係しているのであろう。

表 4－2 課外活動への参加理由（学年別）

	1年	2年	3年	編3年	4年	編4年	全体
友人を得るため	10 (14.7)	17 (21.3)	14 (26.4)	1 (7.7)	22 (21.6)	4 (13.3)	68
知識・教養・技術等を身につけるため	11 (16.2)	7 (8.8)	4 (7.5)	0	11 (10.8)	3 (10.0)	36
人格形成のため	4 (5.9)	3 (3.8)	2 (3.8)	0	4 (3.9)	0	13
興味・関心があったから	15 (22.1)	22 (27.5)	10 (18.9)	1 (7.7)	27 (26.5)	6 (20.0)	81
楽しむため	20 (29.4)	20 (25.0)	14 (26.4)	4 (30.8)	29 (28.4)	8 (26.7)	95
健康増進のため	8 (11.8)	8 (10.0)	7 (13.2)	7 (53.8)	9 (8.8)	6 (20.0)	45
その他	0	3 (3.8)	2 (3.8)	0	0	3 (10.0)	8
合計	68(100)	80(100)	53(100)	13(100)	102(100)	30(100)	

（2）課外活動の不参加理由

課外活動に参加したことのない理由を見ると、総数では「興味ある課外活動がない」が20名(27.4%)と最も多く、次いで「通学時間が長いから」17名(23.3%)、「学業と両立しない」13名(17.8%)、「課外活動に興味がない」12名（16.4%）の順であった（図4－1）。前回の調査では各1名しかあげていなかった「通学時間」と「学業との両立」が上位を占めていたのが特徴的である。その他の理由としては、「主婦なので時間がない」「編入生なので、なんとなく入りにくい」等、多様な学生の生活背景や、本学の新しい制度導入に伴う戸惑いなどが反映されているものがあげられていた。

学年別に比較してみると、2年生と編入3年生で最も多かったのが、「通学時間が長いから」というもので、これ以外の学年で最も多かったのは、「興味ある課外活動がない」という理由であった（表4－3）。

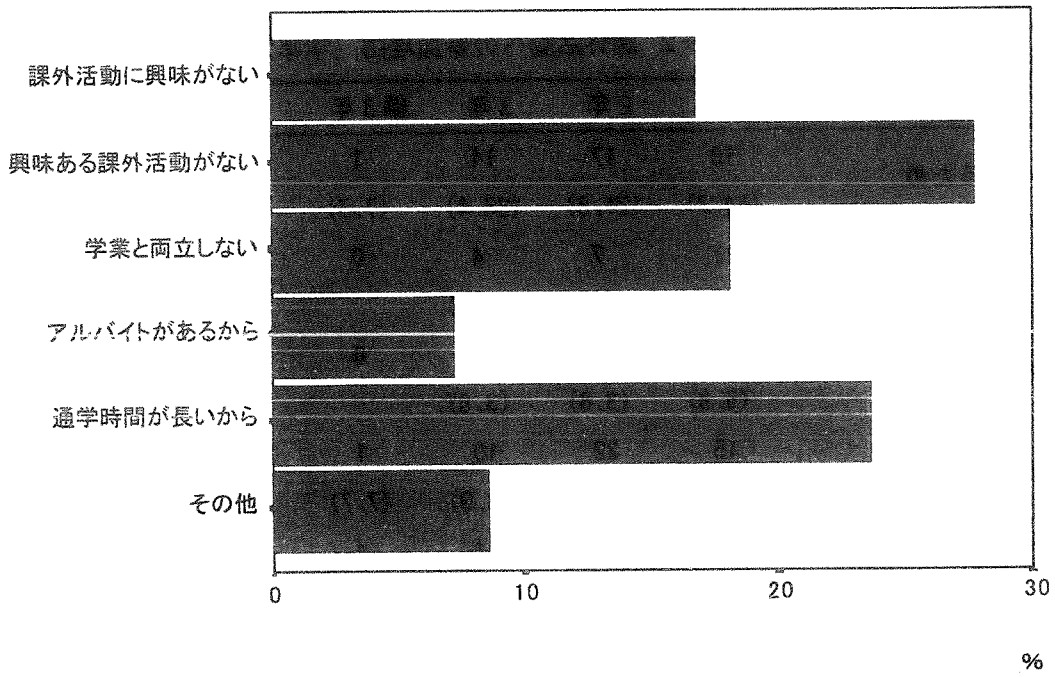

図 4－1 課外活動不参加の理由

表 4－3 学年別の課外活動不参加の理由

		課外活動に興味がない	興味ある課外活動がない	学業と両立しない	アルバイトがあるから	通学時間が長いから	その他	合計
学年	1年		6	2	1	4	2	15
			(40.0)	(13.3)	(6.7)	(26.7)	(13.3)	(100.0)
	2年	3	3	3	2	7	1	19
		(15.8)	(15.8)	(15.8)	(10.5)	(36.8)	(5.3)	(100.0)
	3年	2	3	3	1			9
		(22.2)	(33.3)	(33.3)	(11.1)			(100.0)
	編入3年	2	1	2		5	1	11
		(18.2)	(9.1)	(18.2)		(45.5)	(9.1)	(100.0)
	4年	2	2	2	1	1		8
		(25.0)	(25.0)	(25.0)	(12.5)	(12.5)		(100.0)
	編入4年	3	5	1			2	11
		(27.3)	(45.5)	(9.1)			(18.2)	(100.0)
合計		12	20	13	5	17	6	73
		(16.4)	(27.4)	(17.8)	(6.8)	(23.3)	(8.2)	(100.0)

（3）課外活動における中途退会の理由

課外活動に参加していた学生が中途退会した理由を見ると（図4－2）、総数では「学業と両立しない」が14名（35.0%）と最も多く、次いで「課外活動の方針への不満や人間関係上のトラブル」6名（15.0%）、「課外活動に興味がなくなった」5名（12.5%）、「アルバイトがあるから」5名（12.5%）の順であった。その他の理由としては、「引退」や「解散」などやむを得ない理由があげられていた。前回の調査と比較してみると、最も多かった「課外活動に興味がなくなった」（29.1%）は、第3位へ減少していた。

また、学年別に比較してみると、1年生で最も多かったのは、「課外活動の方針への不満や人間関係上のトラブル」であったが、2年生と4年生については、「学業と両立しない」が最も多かった（表4－4）。

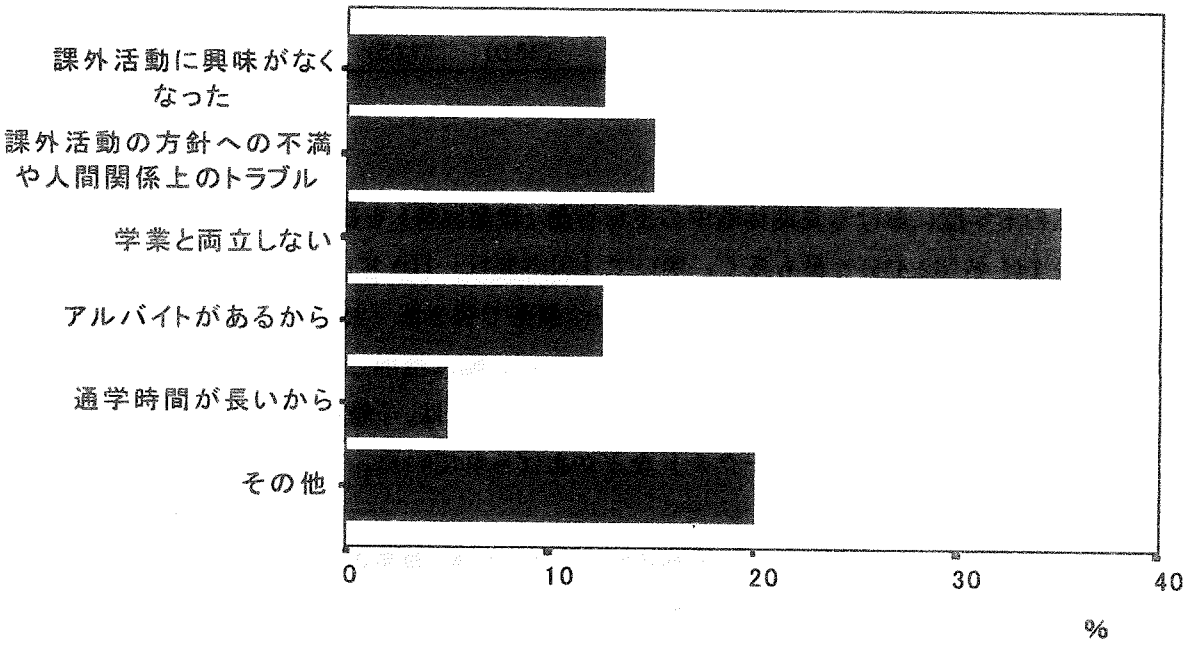

図 4－2 課外活動をやめた主な理由

表 4－4 学年別の課外活動をやめた主な理由

		課外活動に興味がなくなった	課外活動の方針への不満や人間関係上のトラブル	学業と両立しない	アルバイトがあるから	通学時間が長いから	その他	合計
学年	1年		2 (66.7)		1 (33.3)			3 (100.0)
	2年	2 (14.3)		7 (50.0)	2 (14.3)	1 (7.1)	2 (14.3)	14 (100.0)
	3年	2 (25.0)	2 (25.0)	1 (12.5)			3 (37.5)	8 (100.0)
	4年	1 (7.1)	2 (14.3)	6 (42.9)	2 (14.3)	1 (7.1)	2 (14.3)	14 (100.0)
	編入4年						1 (100.0)	1 (100.0)
合計		5 (12.5)	6 (15.0)	14 (35.0)	5 (12.5)	2 (5.0)	8 (20.0)	40 (100.0)

注：編入3年は該当者なし

3）夏期休暇中の主な行動

学生の本年度における夏期休暇中の主な行動（複数回答）を総数から見ると、「アルバイト」が141名(62.4%)と最も多く、次いで「国内旅行」110名(48.7%)、「研究や勉強」83名(36.7%)となっている（表4－5）。前回の調査で第2位（25.2%）だった「海外旅行」は34名(15.0%)と減少し、逆に「アルバイト」が大幅に増加しており、学生の経済状況が厳しくなっていることが推察される。「その他」としては、「帰省」「友人との遊び」「就職活動（試験含む）」「趣味・サークル」などがあげられていた。

表 4－5 夏期休暇中の主な行動（複数回答）

	国内旅行	海外旅行	自動車等の免許取得	合宿	研究や勉強	アルバイト	その他
1年	18	6	5	8	11	26	5
2年	31	11	1	7	8	40	12
3年	22	6	5	3	2	24	6
編入3年	11	6	0	1	5	20	4
4年	20	3	0	1	37	18	4
編入4年	8	2	0	0	20	13	4
合計	110 (48.7)	34 (15.0)	11 (5.8)	20 (8.8)	83 (36.7)	141 (62.4)	35 (15.5)

4）課外教育と学生の希望

（1）課外教育の経験の有無と受講講座

大学入学後、技術や資格獲得のための学外活動の有無を見ると、総数では「ある」と回答した学生が51名(23.1%)となっており、前回の調査よりも15.8%減少している。

「ある」と回答した学生が受講した内容について見てみると、最も多かったのは「語学」22名(43.1%)、次いで「自動車教習所（自動二輪含む)」17名（33.3%)、「スポーツ・エアロビクス・ダンス等」10名(19.6%)の順であった。前回の調査で最も多かった「和洋裁」79名(97.5%)は、今回の調査では1名もいなかったのが特徴的であった。また、1名ではあったが、「呼吸療法認定士の資格更新のための肺機能講習会」に参加している編入生がおり、多様な学生の存在を示している。

（2）課外教育プログラムへの希望

学生が、大学主催の課外教育プログラムについて希望する中で最も多いのは、「海外研修」55名(29.7%)、次いで「救急法の講習会」35名(18.9%)、「映画鑑賞」32名(17.3%)、「教養講座などの講演会」19名（10.3%）の順であった。その他としては、「国家試験対策教育」、「リラクセーション」などがあげられていた（表4－6)。

学年別に比較してみると、3年生だけは「救急法の講習会」の希望が最も多かったが、それ以外の学年については、「海外研修」を最も多く希望していた。また、前回の調査と比較すると、最も多かった「ハイキング・キャンプ等」の希望が減少し、「海外研修」プログラムの希望者が大幅に増加しているのが特徴的である。

表 4－6 学年別の希望する大学主催の課外教育プログラム

		教養講座等の講演会	映画鑑賞	音楽鑑賞	ハイキング・キャンプ等	スポーツ講習会等	海外研修	救急法の講習会	その他	合計
学年	1年	2	5	1	5	3	14	5	1	36
		(5.6)	(13.9)	(2.8)	(13.9)	(8.3)	(38.9)	(13.9)	(2.8)	(100.0)
	2年		9	3	2	4	13	9	3	43
			(20.9)	(7.0)	(4.7)	(9.3)	(30.2)	(20.9)	(7.0)	(100.0)
	3年	1	8	1	4	1	5	9	1	30
		(3.3)	(26.7)	(3.3)	(13.3)	(3.3)	(16.7)	(30.0)	(3.3)	(100.0)
	編入3年	8	2			1	9		1	21
		(38.1)	(9.5)			(4.8)	(42.9)		(4.8)	(100.0)
	4年	4	6	2	3	2	9	9	1	36
		(11.1)	(16.7)	(5.6)	(8.3)	(5.6)	(25.0)	(25.0)	(2.8)	(100.0)
	編入4年	4	2		2	2	5	3	1	19
		(21.1)	(10.5)		(10.5)	(10.5)	(26.3)	(15.8)	(5.3)	(100.0)
合計		19	32	7	16	13	55	35	8	185
		(10.3)	(17.3)	(3.8)	(8.6)	(7.0)	(29.7)	(18.9)	(4.3)	(100.0)

5．生活時間について

1）睡眠時間

今回の調査から、実習の影響が睡眠時間にどの程度影響を及ぼしているのかを比較するために、実習の有無に分けて質問を行った（図5－1）。まず、実習がない期間の場合、1日の睡眠時間で最も多いのは「5～6時間未満」91 名（40.3%）、次いで「6～7時間未満」80 名（35.4%）、「7～8時間未満」27 名（11.9%）、「4～5時間未満」23 名（10.2%）の順であった。前回の調査では「8時間以上」と回答した学生が 11 名（5.4%）いたが、今回の調査では1名もおらず、全体といして睡眠時間の短縮化傾向がみられた。

次に、実習期間中の場合を見てみると、最も多いのが「4～5時間未満」53 名（31.4%）、次いで「3～4時間未満」36 名（21.3%）、「5～6時間未満」33 名（19.5%）となっており、「3時間未満」も 24 名（14.2%）とかなりの人数に上っていた。全体として、86.4%の学生が6時間未満であった。実習のない期間は、睡眠時間6時間未満の学生の割合は52.7%と実習のある期間と比べるとかなり低く、実習の影響はかなり大きいと思われる。

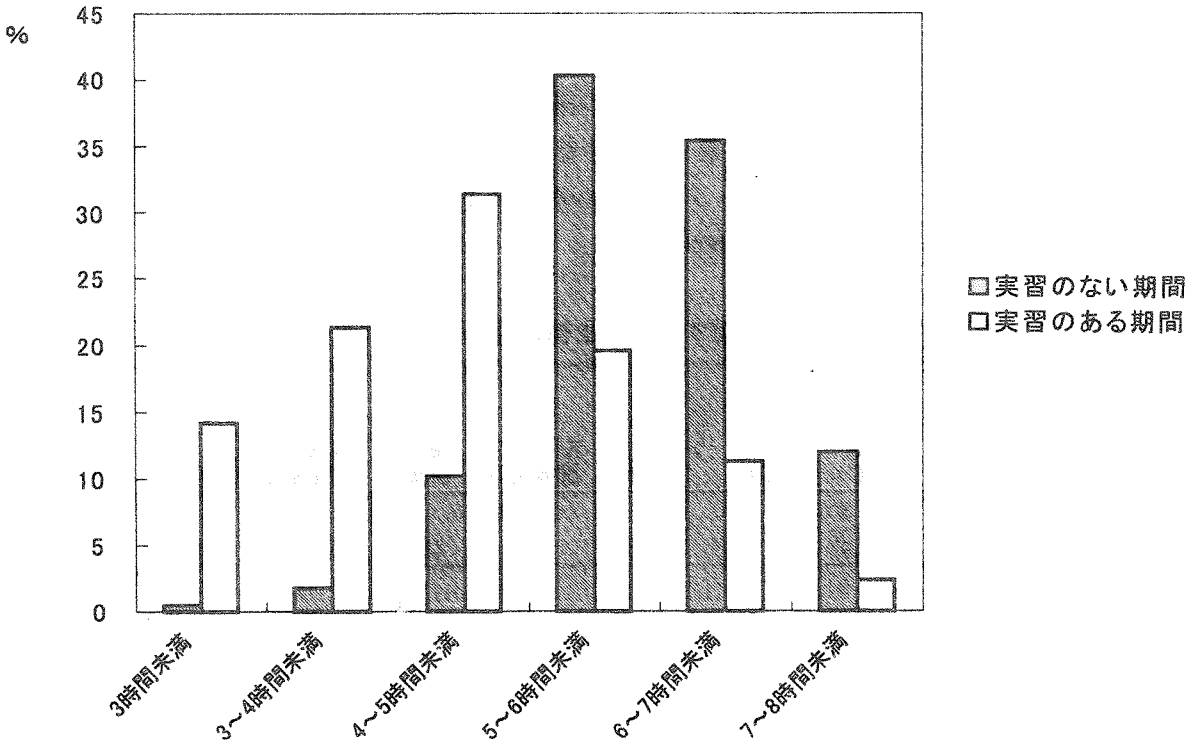

図 5－1 睡眠時間の比較（実習期間の有無）

表 5－1 学年別の睡眠時間（実習のない期間）

		3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	合計
学年	1年	1		4	20	13	4	42
		(2.4)		(9.5)	(47.6)	(31.0)	(9.5)	(100.0)
	2年		2	9	27	11	4	53
			(3.8)	(17.0)	(50.9)	(20.8)	(7.5)	(100.0)
	3年		1	2	15	13	3	34
			(2.9)	(5.9)	(44.1)	(38.2)	(8.8)	(100.0)
	編入3年			3	8	13	2	26
				(11.5)	(30.8)	(50.0)	(7.7)	(100.0)
	4年		1	2	17	19	6	45
			(2.2)	4.4%	(37.8)	(42.2)	(13.3)	(100.0)
	編入4年			2	3	10	7	22
				(9.1)	(13.6)	(45.5)	(31.8)	(100.0)
合計		1	4	22	90	79	26	222
		(0.5)	(1.8)	(9.9)	(40.5)	(35.6)	(11.7)	(100.0)

表 5－2 学年別の睡眠時間（実習期間中）

		3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	合計
学年	1年	1		3	3	1	1	9
		(11.1)		(33.3)	(33.3)	(11.1)	(11.1)	(100.0)
	2年	21	9	15	5	3		53
		(39.6)	(17.0)	(28.3)	(9.4)	(5.7)		(100.0)
	3年		10	15	6	2	1	34
			(29.4)	(44.1)	(17.6)	(5.9)	(2.9)	(100.0)
	編入3年		1			3		4
			(25.0)			(75.0)		(100.0)
	4年	2	12	15	12	3		44
		(4.5)	(27.3)	(34.1)	(27.3)	(6.8)		(100.0)
	編入4年		2	4	7	7	2	22
			(9.1)	(18.2)	(31.8)	(31.8)	(9.1)	(100.0)
合計		24	34	52	33	19	4	166
		(14.5)	(20.5)	(31.3)	(19.9)	(11.4)	(2.4)	(100.0)

次に、実習のない期間の睡眠時間を学年別に比較してみると（表５－１）、１年生から３年生で最も多いのが「５～６時間未満」であり、編入３年生から４年生及び編入４年生で最も多いのが「６～７時間未満」であった。学年が上になると、睡眠時間が多くなる傾

向を示していた。

さらに、実習期間中の睡眠時間を学年別に比較してみると（表５－２）、２年生では「３時間未満」の学生が21名（39.6%）と最も多く、殆どの学年で最も多い「４～５時間未満」と比較すると、極めて少ない睡眠時間であった。２年次の学生にとって、本格的な臨床実習の負担が大きいことがこのことからも窺える。

２）学習時間

大学における正規の学習時間以外での、１日の自己学習時間を見てみると（図５－２）、最も多いのは「１時間未満」95 名（43.4%）、次いで「１～２時間未満」87 名（39.7%）であった。前回の調査では、「１～２時間未満」が最も多く、「１時間未満」の学習時間と回答した割合は、今回の学生の方が多くなっており（前回は 33.0%）、学習時間の少ない学生が増加している。その反面、「３時間以上」の学生が 11 名（5.0%）おり、前回の調査（2.0%）よりも増加しているのが、特徴的である。

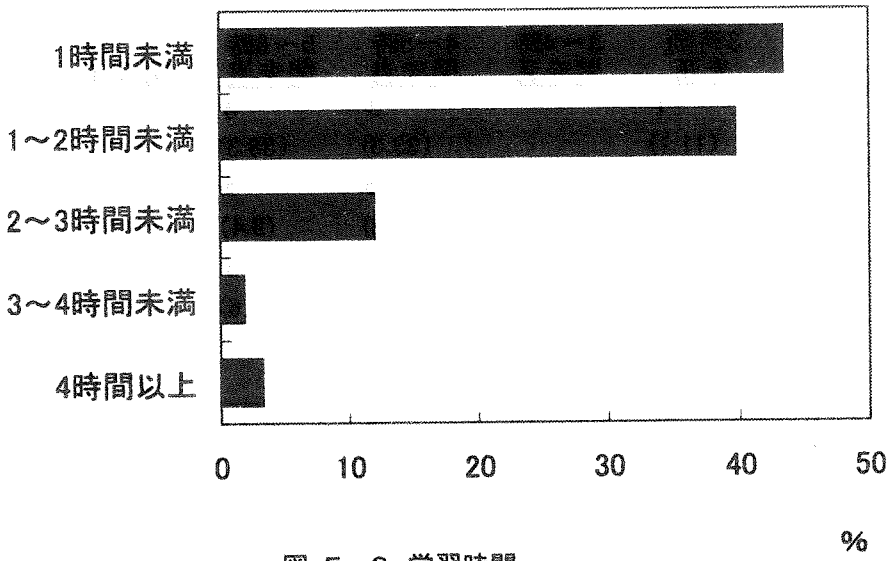

図 5－2 学習時間

表 5－3 学年別の学習時間

		1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4時間以上	合計
学年	1年	19	16	5		1	41
		(46.3)	(39.0)	(12.2)		(2.4)	(100.0)
	2年	30	15	7		1	53
		(56.6)	(28.3)	(13.2)		(1.9)	(100.0)
	3年	16	13	2	1	1	33
		(48.5)	(39.4)	(6.1)	(3.0)	(3.0)	(100.0)
	編入3年	8	14	3	1		26
		(30.8)	(53.8)	(11.5)	(3.8)		(100.0)
	4年	18	19	4	1	3	45
		(40.0)	(42.2)	(8.9)	(2.2)	(6.7)	(100.0)
	編入4年	4	10	5	1	1	21
		(19.0)	(47.6)	(23.8)	(4.8)	(4.8)	(100.0)
合計		95	87	26	4	7	219
		(43.4)	(39.7)	(11.9)	(1.8)	(3.2)	(100.0)

学年別に比較してみると（表５－３）、１年生から３年生までは最も多いのが「１時間未満」であるのに対して、学年が上になると学習時間の長い学生が増加しており、４年生は最も多いのが「１～２時間未満」となっている。また、編入生の方が一般入学生に比べて、学習時間が長い者の割合が高いのが特徴的である。

３）通学時間

学生の通学時間（片道）で最も多いのは「30～60 分未満」66 名（29.2%）、次いで「60～90 分未満」57 名（25.2%）、「90～120 分未満」49 名（21.7%）、「30 分未満」38 名（16.8%）の順であった（図５－３）。前回の調査では、最も多かったのが「30 分未満」（46.8%）であったが、当時は学生寮が残っており、在寮している学生がいたことが影響していると思われる。なお、「120 分以上」の学生は 16 名（7.1%）で、前回の調査（11.3%）と比較すると、その割合は減少している。

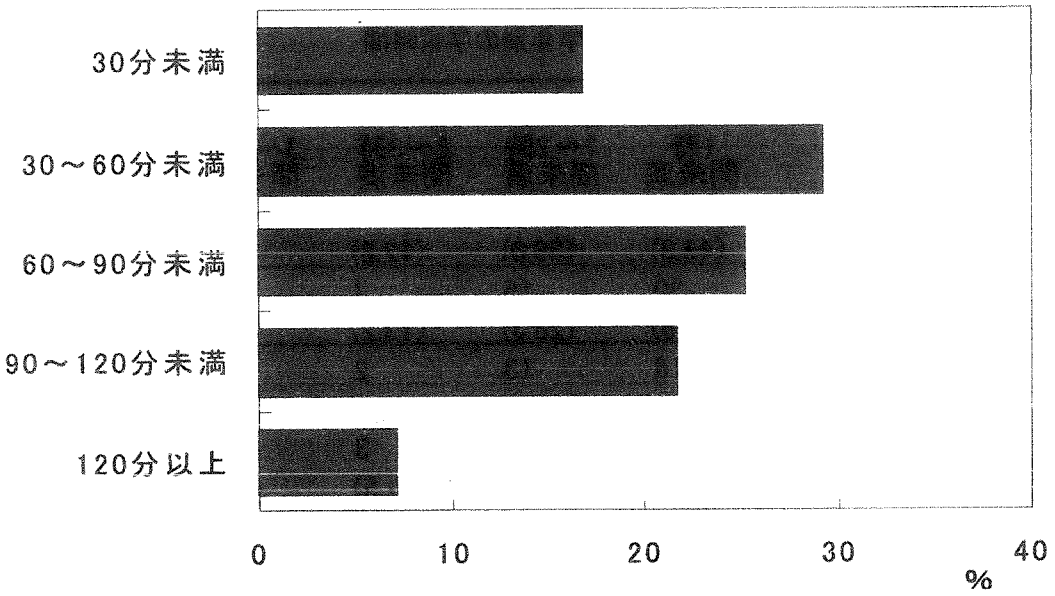

図 5－3 通学時間(片道)

4）自由時間

学生がテレビや音楽、電話等で過ごす自由時間については、最も多いのは「1～2時間未満」94名（42.7%）、次いで「2～3時間未満」61名（27.7%）、「3～4時間未満」29名（13.2%）の順であった。前回の調査結果では、若干、回答の選択肢は異なっているが、「2時間」と回答した学生は59.1%、「1時間」と回答した学生は9.4%であった。全体の傾向として、最近の学生の自由時間は、減少しているといってよいであろう。学年別に比較してみると、いずれも「1～2時間未満」が最も多く、同様な傾向を示していた（表5－4）。

表 5－4 学年別の自由時間(TV･音楽･電話等)

		1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4時間以上	合計
学年	1年	4	14	12	8	3	41
		(9.8)	(34.1)	(29.3)	(19.5)	(7.3)	(100.0)
	2年	4	22	15	6	5	52
		(7.7)	(42.3)	(28.8)	(11.5)	(9.6)	(100.0)
	3年	6	12	8	4	4	34
		(17.6)	(35.3)	(23.5)	(11.8)	(11.8)	(100.0)
	編入3年	2	13	7	2	2	26
		(7.7)	(50.0)	(26.9)	(7.7)	(7.7)	(100.0)
	4年	2	22	11	7	3	45
		(4.4)	(48.9)	(24.4)	(15.6)	(6.7)	(100.0)
	編入4年		11	8	2	1	22
			(50.0)	(36.4)	(9.1)	(4.5)	(100.0)
合計		18	94	61	29	18	220
		(8.2)	(42.7)	(27.7)	(13.2)	(8.2)	(100.0)

5）課外活動時間

学生が学内・外のクラブやサークル等で過ごす時間については、最も多いのは「1 時間未満」132 名（65.3%）、次いで「2～3 時間未満」24 名（11.9%）、「1 ～ 2 時間未満」21 名（10.4%）の順であった。

学年別で比較してみると、すべての学年で最も多いのが「1 時間未満」であり、違いは認められなかった。(表5－5)

前項の「課外活動」でも述べたが、最近の傾向として大学生の課外活動時間が減少していることが、本学の学生においても認められた。また、前回の調査と、若干、回答の選択肢は異なっているが、「1 時間以下」51.7% 、次いで「2 時間」31.5%であり、課外活動時間の減少傾向は、一層強まっているといって良いであろう。

表 5−5 学年別の課外活動時間

		1時間未満	1〜2時間未満	2〜3時間未満	3〜4時間未満	4時間以上	合計
学年	1年	17	8	7	5	2	39
		(43.6)	(20.5)	(17.9)	(12.8)	(5.1)	(100.0)
	2年	32	6	6	2	2	48
		(66.7)	(12.5)	(12.5)	(4.2)	(4.2)	(100.0)
	3年	23		5	3	1	32
		(71.9)		(15.6)	(9.4)	(3.1)	(100.0)
	編入3年	20	3		1		24
		(83.3)	(12.5)		(4.2)		(100.0)
	4年	22	3	6	4	5	40
		(55.0)	(7.5)	(15.0)	(10.0)	(12.5)	(100.0)
	編入4年	18	1				19
		(94.7)	(5.3)				(100.0)
合計		132	21	24	15	10	202
		(65.3)	(10.4)	(11.9)	(7.4)	(5.0)	(100.0)

6．健康状態について

1）身体面の健康

日頃の健康状態についての結果は、図６－１に示した。「いつも好調で、異常を感じない」と答えた学生は回答が得られた215名中25名(11.6%)、「１年に１～２回風邪をひく程度」は108名（50.2%）であった。この２項目を併せて、健康状態が比較的良いと回答した学生の割合は61.8%であり、1996年の調査73.4%に比べると減少していた。

「３ヶ月に１～２回は病気によって欠席することがある」と回答した学生は６名(2.8%)、「１ヶ月に１から２回は病気によって欠席することがある」は３名（1.4%）であり、「常に疲労感や不調を感じている」も53名（24.7%）と多く、「治療している病気がある」は９名（4.2%）であった。「常に疲労感や不調を感じている」と「治療している病気がある」を併せると28.9%であり、常に健康状態が悪い者は1996年の調査時よりも増加しているといえる。なお、治療している病気には、胃炎、生理不順、アトピー性皮膚炎、肌荒れ、かぜなどが挙げられており、なかには乳がんという答えもあった。

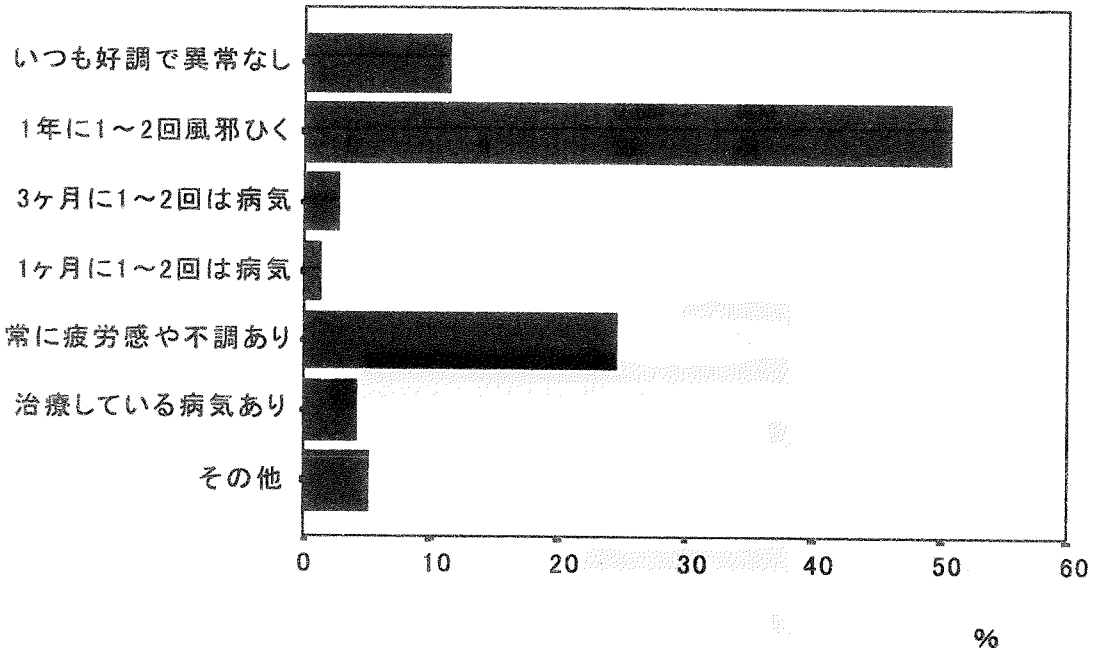

図 6－1 健康状態

学年別の健康状態は、表６－１に示した。学部１、２年生に比して３、４年生の方が疲労や健康状態の不調を訴えている者の割合が多い傾向にあり、４年生では「いつも好調で異常を感じない者」はゼロであった。３、４年生は実習時間が増加し、それに伴う睡眠時間の減少や生活リズムの変化などが、健康状態に影響していると考えられる。しかしながら、実習中の睡眠時間は１、２年生の方が短く、そのような状況にもかかわらず、２年生に健

康状態が良いと答えた者の割合が高いという特徴がみられた。また学部生と編入生を比べると、編入生の方が、疲労や不調を訴える者の割合が少ない傾向にあった。とりわけ編入4年生は、健康状態が良いと答えた者の割合が高かった。

表 6－1 学年別の健康状態

		いつも好調で、異常を感じない	1年に1～2回風邪をひく程度	3ヶ月に1～2回は病気によって欠席することがある	1ヶ月に1～2回は病気によって欠席することがある	常に疲労感や不調を感じている	治療している病気がある	その他	合計
学年	1年	9	16			11	1	4	41
		(22.0)	(39.0)			(26.8)	(2.4)	(9.8)	(100.0)
	2年	9	27	1	1	11	1	2	52
		(17.3)	(51.9)	(1.9)	(1.9)	(21.2)	(1.9)	(3.8)	(100.0)
	3年	2	15	1	1	9	2	2	32
		(6.3)	(46.9)	(3.1)	(3.1)	(28.1)	(6.3)	(6.3)	(100.0)
	編入3年	4	11		1	6	2	1	25
		(16.0)	(44.0)		(4.0)	(24.0)	(8.0)	(4.0)	(100.0)
	年		25	4		12	2	1	44
			(56.8)	(9.1)		(27.3)	(4.5)	(2.3)	(100.0)
	編入4年	1	14			4	1	1	21
		(4.8)	(66.7)			(19.0)	(4.8)	(4.8)	(100.0)
合計		25	108	6	3	53	9	11	215
		(11.6)	(50.2)	(2.8)	(1.4)	(24.7)	(4.2)	(5.1)	(100.0)

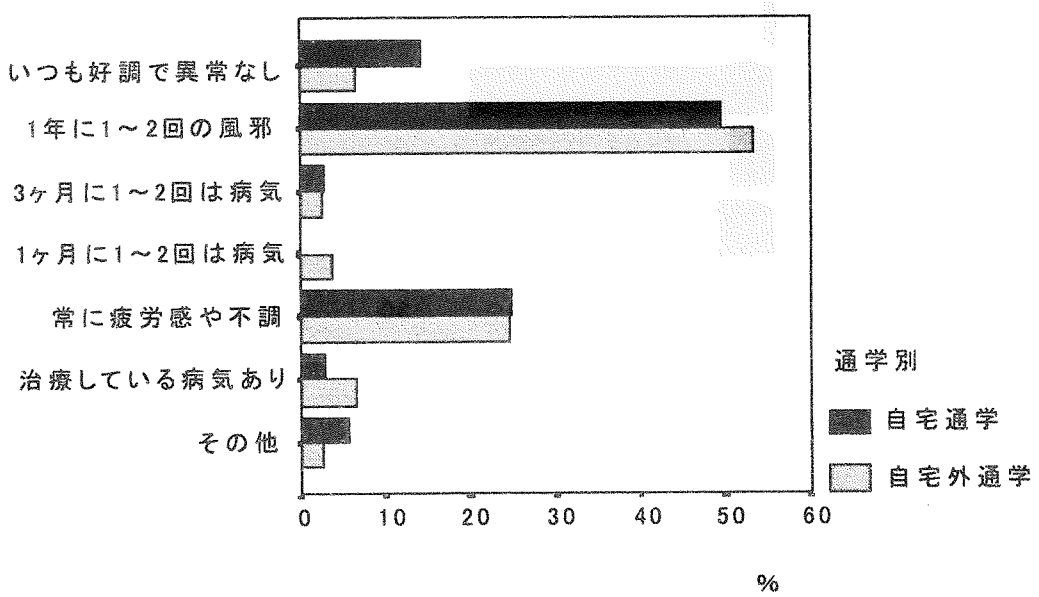

図 6－2 通学別の健康状態

自宅通学者と自宅外通学者とを比較すると、「いつも好調で異常なし」と答えた学生は、自宅通学者の方がやや高値であったが、その他に大きな差はなかった（図６－２）。

２）精神面の健康

入学してから今までに悩みや不安があった、と答えた学生は、回答が得られた222名中200名（90.1%）と高率であった（表６－２）。66校の看護系大学を対象に行った「学生生活向上に関する調査研究（1999年度日本私立看護系大学協会）」では53.2%であり、本学の方がかなり高値を示していた。

表 6－2 入学してから今までの悩みや不安（学年別）

		あった（ある）	なかった（ない）	合計
学年	1年	36	6	42
		(85.7)	(14.3)	(100.0)
	2年	49	4	53
		(92.5)	(7.5)	(100.0)
	3年	34		34
		(100.0)		(100.0)
	編入3年	21	5	26
		(80.8)	(19.2)	(100.0)
	4年	39	6	45
		(86.7)	(13.3)	(100.0)
	編入4年	21	1	22
		(95.5)	(4.5)	(100.0)
合計		200	22	222
		(90.1)	(9.9)	(100.0)

悩みや不安内容の内訳（複数回答）は、「将来の進路」が最も多く200名中120名（59.4%）、次いで「看護婦としての適性」が112名（55.4%）、「友人との人間関係」110名（54.5%）、「学業に関する能力問題」106名（52.5%）、「異性問題」79名（39.1%）、「人生観について」65名（32.2%）、「家族や家庭内のこと」56名（27.7%）、「経済的な問題」54名（26.7%）、「健康について」49名（24.3%）、「課外活動」17名（8.4%）、「その他」9名（4.5%）であった。

1996年の調査結果に比して10ポイント以上増加した項目は、「将来の進路」と「友人との人間関係」であった。一方、「看護婦としての適性」「人生観」は減少していた。その他の項目は同様の傾向であった。「学生生活向上に関する調査研究（1999年度日本私立看護系大学協会）」では「就職や将来の進路について」（81%）が最も多く、「授業など学業

について」が44.8%、「友人などの対人関係について」15.9%、「異性の問題」13.1%、「家族や家庭内のこと」8.4%、「経済問題」6.8%であった。「就職や将来の進路について」が最も高値を示していた点については、本学も同様の結果であった。しかしながら、私立看護系調査に比して本学は、「友人との人間関係」「異性の問題」といった人間関係に関すること、および「家族や家庭内のこと」「経済的な問題」を悩みや不安としている学生の割合が高い傾向にあった。

学年別にみると、「将来の進路」や「学業に関する能力問題」は、学部生に比して編入生のほうが全般的に高値を示す傾向にあった。他方「看護婦としての適性」は、学部生に比して編入生のほうが低値を示す傾向にあった（表6－3）。編入生は、すでに看護婦国家資格を得ている者がほとんどであり、その上でさらに、大学教育あるいは保健婦国家資格取得をめざして進学したという背景から、看護職に対する適性に悩んだり不安をおぼえる者は少ないようである。しかし、将来の進路に対しては比較的多くの者が悩みを抱えているようである。

表 6－3 学年別にみた悩みや不安

	1年	2年	3年	編3年	4年	編4年
看護婦としての適性	22 (17.1)	38 (18.5)	24 (16.2)	1 (0.2)	19 (13.1)	6 (7.7)
学業に関する能力問題	16 (12.4)	27 (13.2)	16 (10.8)	16 (29.6)	14 (9.7)	14 (17.9)
健康について	7 (5.4)	13 (6.3)	7 (4.3)	2 (3.7)	13 (9.0)	6 (7.7)
人生観について	11 (8.5)	15 (7.3)	13 (8.8)	2 (3.7)	18 (12.4)	5 (6.4)
将来の進路	15 (11.6)	30 (14.6)	19 (12.8)	15 (27.8)	22 (15.2)	17 (21.8)
友人との人間関係	17 (13.2)	32 (15.6)	26 (17.6)	3 (5.6)	20 (13.8)	8 (10.3)
異性問題	10 (7.8)	21 (10.2)	17 (11.5)	3 (5.6)	19 (13.1)	7 (9.0)
家族や家庭内のこと	10 (7.8)	13 (6.3)	12 (8.1)	1 (0.2)	14 (9.7)	6 (7.7)
経済的な問題	12 (9.3)	11 (5.4)	9 (6.1)	11 (20.4)	2 (1.4)	7 (9.0)
課外活動	5 (3.9)	4 (2.0)	4 (2.7)	0	3 (2.1)	0
その他	4 (3.1)	1 (0.5)	1 (0.7)	0	1 (0.7)	2 (2.6)
合計	129 (100)	205 (100)	148 (100)	54 (100)	145 (100)	78 (100)

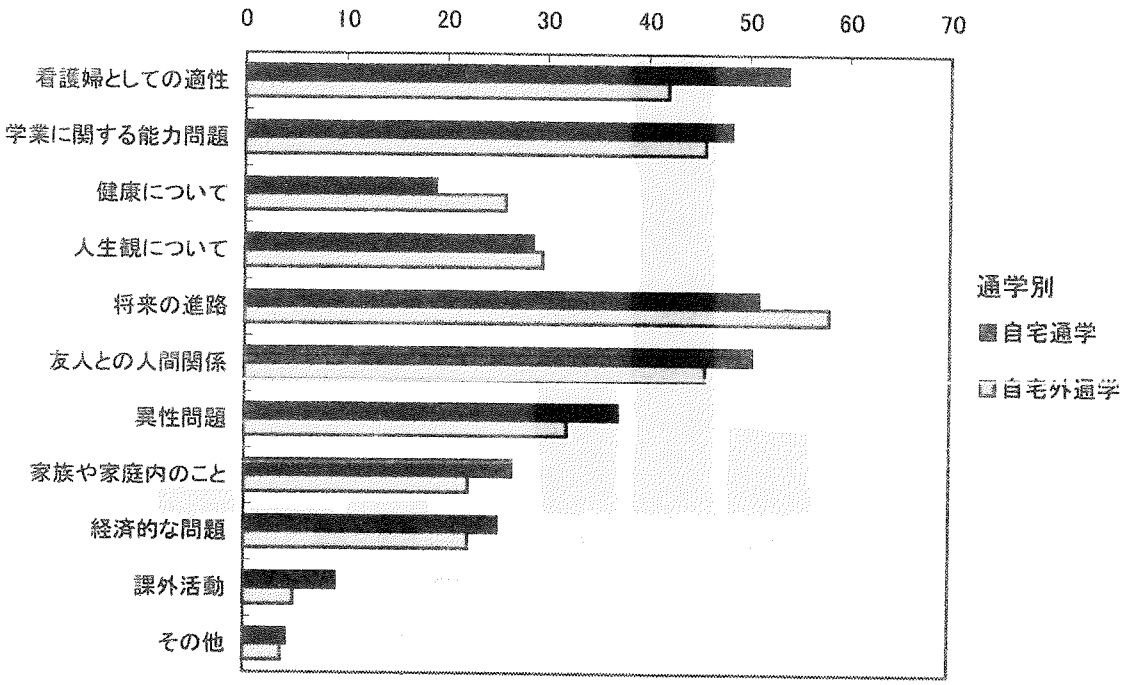

図 6－3 通学別の悩みや不安

通学別に悩みや不安について比較したところ、全般的な傾向は似通っていたが、「看護婦としての適性」については、自宅通学者のほうが悩みや不安を強くもっていた。一方、自宅外通学者は、自宅通学者よりも「健康について」や「将来の進路」についての悩みや不安が若干強かった（図６－３）。

不安や悩みの相談相手は、「友人」が 98 名（62.8%）であり最も多かった。次いで、「家族」28 名（17.8%）、「恩師や先輩」３名（1.9%）、「カウンセラー」３名（1.3%）、「大学の教職員」１名（0.6%）であった。「誰にも相談しない」と答えた学生も 19 名（12.1%）みられた（図６－４、表６－４）。回答項目の表記が異なってはいるが、1996 年の調査では「自分で」と回答した学生が 45%であり、これに比して、今回は「誰にも相談しない」が大幅に減少しており、学生が悩みや不安を他者に相談する傾向にあると考えられる。携帯電話や e-mail などの通信機器の急速な普及が、いつでもどこでも容易に友人と連絡や相談ができる状況を作っていることも、友人などの他者に悩みや不安を相談する傾向を促す一つの要因であると考えられる。その一方で、「友人との関係」に悩む学生も増えており、学生間の人間関係に何らかの質的な変化が起きているのかもしれない。

通学別による相談相手を調べたところ、相談相手に差異はみられないが、自宅外通学者のほうが悩みや不安をもっていても誰にも相談していない割合が２倍近くおり、孤立している傾向にあることがわかった。また、自宅外通学者も自宅通学者と同程度の割合で、家族を相談相手としているという特徴がみられた（表６－５）。

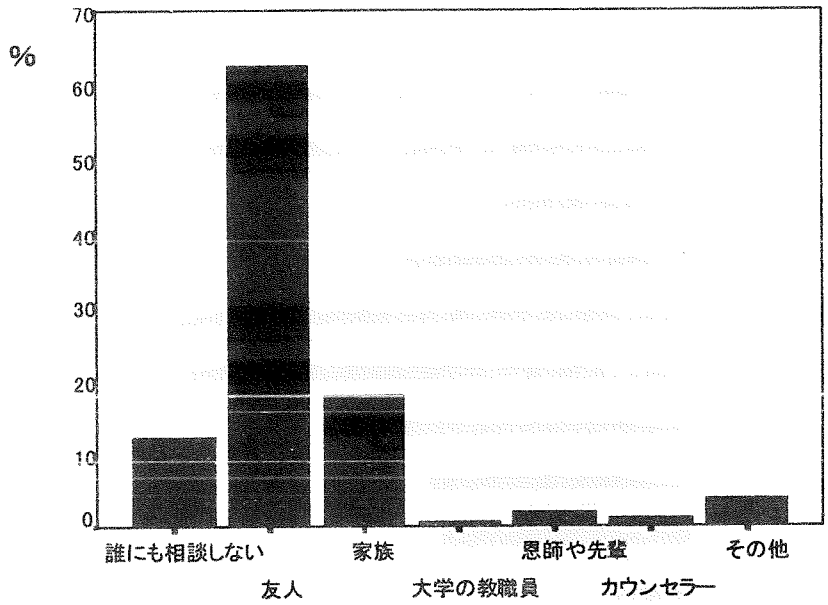

図 6−4 悩みや不安の相談相手

表 6−4 悩みや不安の相談相手(学年別)

		誰にも相談しない	友人	家族	大学の教職員	恩師や先輩	カウンセラー	その他	合計
学年	1年	6	14	7				3	30
		(20.0)	(46.7)	(23.3)				(10.0)	(100.0)
	2年	1	26	8			1	1	37
		(2.7)	(70.3)	(21.6)			(2.7)	(2.7)	(100.0)
	3年	6	12	4				1	23
		(26.1)	(52.2)	(17.4)				(4.3)	(100.0)
	編入3年	3	9	2		3	1		18
		(16.7)	(50.0)	(11.1)		(16.7)	(5.6)		(100.0)
	4年	3	24	2	1				30
		(10.0)	(80.0)	(6.7)	(3.3)				(100.0)
	編入4年		10	5				1	16
			(62.5)	(31.3)				(6.3)	(100.0)
合計		19	95	28	1	3	2	6	154
		(12.3)	(61.7)	(18.2)	(0.6)	(1.9)	(1.3)	(3.9)	(100.0)

表 6－5 悩みや不安の相談相手(通学別)

		誰にも相談しない	友人	家族	大学の教職員	恩師や先輩	カウンセラー	その他	合計
通学別	自宅通学	10	65	19	1	2	1	5	103
		(9.7)	(63.1)	(18.4)	(1.0)	(1.9)	(1.0)	(4.9)	(100.0)
	自宅外通学	9	33	8		1	1	1	53
		(17.0)	(62.3)	(15.1)		(1.9)	(1.9)	(1.9)	(100.0)
合計		19	98	27	1	3	2	6	156
		(12.2)	(62.8)	(17.3)	(0.6)	(1.9)	(1.3)	(3.8)	(100.0)

全国の看護系大学では、53%がカウンセラーを設置している。本学も、2000 年度より学生相談室を設置して学生の相談に応じている。この学生相談室を利用した学生の割合は、回答者 222 名中 4 名（1.8%）であった（表 6 － 6）。

表 6－6 学生相談室の利用(学年別)

		利用した	利用していない	合計
学年	1年	1	41	42
		(2.4)	(97.6)	(100.0)
	2年	1	52	53
		(1.9)	(98.1)	(100.0)
	3年		34	34
			(100.0)	(100.0)
	編入3年	1	25	26
		(3.8)	(96.2)	(100.0)
	4年	1	44	45
		(2.2)	(97.8)	(100.0)
	編入4年		22	22
			(100.0)	(100.0)
合計		4	218	222
		(1.8)	(98.2)	(100.0)

学生相談室の今後の利用の意向は、「利用したい」が 20 名（9.0%）、「できれば利用したい」が 49 名（22.1%）であり、この 2 項目を併せて利用の意向がみられる者は 69 名（30.5%）であった。他方で、「あまり利用したくない」は 43 名（19.4%）、「利用したくない」は 26 名（11.7%）で利用の意向があまりみられない者は合計 71 名（31.6%）であった。「わからない」は 85 名（37.8%）であった。学年別の学生相談室利用の意向については表 6 － 7 に示した。

以上より、現状では学生相談室の利用者数こそ少ないが、約 30%の学生が利用を考えて

いることがわかった。本調査からでは、利用を考えている学生が、どの程度の深刻な悩みを抱えているか把握できない。しかしながら既に見てきたように、約90%の学生が大学での学生生活に不安や悩みを抱えていると答えていることからも、今後は学生相談室が、このような状況におかれている学生にとっていつでも相談することのできる場所であることを認知してもらい、来室を促していくことが必要であると考えられる。

表 6－7 学生相談室の今後の利用意向(学年別)

		利用したい	できれば利用したい	あまり利用したくない	利用したくない	わからない	合計
学年	1年	3	9	10	3	17	42
		(7.1)	(21.4)	(23.8)	(7.1)	(40.5)	(100.0)
	2年	3	11	5	7	27	53
		(5.7)	(20.8)	(9.4)	(13.2)	(50.9)	(100.0)
	3年	1	8	11	5	9	34
		(2.9)	(23.5)	(32.4)	(14.7)	(26.5)	(100.0)
	編入3年	1	8	4		13	26
		(3.8)	(30.8)	(15.4)		(50.0)	(100.0)
	4年	7	9	9	8	12	45
		(15.6)	(20.0)	(20.0)	(17.8)	(26.7)	(100.0)
	編入4年	5	4	4	3	6	22
		(22.7)	(18.2)	(18.2)	(13.6)	(27.3)	(100.0)
合計		20	49	43	26	84	222
		(9.0)	(22.1)	(19.4)	(11.7)	(37.8)	(100.0)

7．大学生活全般について

1）本学を選択した理由

回答が得られた 222 名が本学を選んだ理由として、最も回答が多かった項目は、「就職や将来のことを考えて」の 132 名（59.2%）であった。次いで、「教育内容や専攻分野」が 90 名（40.4%）、「大学の特色」が 76 名（34.1%）、「大学の立地条件が良いため」54 名（24.2%）、「周囲のアドバイス」51 名（22.9%）、「奨学金制度が充実しているから」21 名（9.4%）であり、「その他」は 27 名（12.1%）であった。1990 年の調査では、第 3 位に「学費のことを考えて」（10.9%）が入っていたにもかかわらず、今回の調査でこの項目の順位が低いのは、日本赤十字社関連の奨学金を受ける学生数が減少していることとも関連していると思われる。

2）入学満足度

本学へ入学してからの満足度については、「よかったと思う」と答えた学生が最も多く 150 名（67.3%）であった。一方、「よかったとはいえない」は 11 名（4.9%）、「どちらともいえない」は 62 名（27.8%）であった。1990 年の「よかった」35%に比べて、現在の在学生の方が本学への入学を肯定的に受けとめている傾向にあった。

学年別に見ると、入学満足度は学年によって大きく異なり、2 年生は「よかったと思う」24 名（45.3%）と答えた者の割合が他の学年に比べて低く、また「よかったとはいえない」は 6 名（11.7%）と、入学満足度が低い傾向にあった（表 7－1）。

表 7－1 学年別の入学満足度

		よかったと思う	よかったとはいえない	どちらともいえない	合計
学年	1年	32	1	9	42
		(76.2)	(2.4)	(21.4)	(100.0)
	2年	24	6	23	53
		(45.3)	(11.3)	(43.4)	(100.0)
	3年	28		5	33
		(84.8)		(15.2)	(100.0)
	編入3年	14	1	10	25
		(56.0)	(4.0)	(40.0)	(100.0)
	4年	29	3	13	45
		(64.4)	(6.7)	(28.9)	(100.0)
	編入4年	20		2	22
		(90.9)		(9.1)	(100.0)
合計		147	11	62	220
		(66.8)	(5.0)	(28.2)	(100.0)

3）勉強の継続についての意向

本学で勉強を続けることについては、「このまま勉学を続ける」と答えた学生が 212 名（96.4%）と大多数を占めた。しかし少数ではあるが、「他の看護系大学へ転学したい」1名（0.5%）、「専攻を変えたい」5名（2.3%）、「辞めたい」2名（0.9%）と答えた学生もみられた（表7－2）。先に述べた入学に対する満足度とも関連しているが、1990 年は「このまま勉強を続ける」が 73.8%と低く、「他の大学への転学・進路変更」を希望するものが 24.6%と高かった。以上より、1990 年に比して現在の学生は、看護学を学ぶこと、あるいは看護職に従事することに対する迷いは少ない傾向にあると考えられる。

表 7－2 勉学の継続意向（学年別）

		このまま勉学を続ける	他の看護系大学へ転学したい	専攻を変えたい	辞めたい	合計
学年	1年	40	1	1		42
		(95.2)	(2.4)	(2.4)		(100.0)
	2年	48		2	1	51
		(94.1)		(3.9)	(2.0)	(100.0)
	3年	34				34
		(100.0)				(100.0)
	編入3年	25		1		26
		(96.2)		(3.8)		(100.0)
	4年	43		1	1	45
		(95.6)		(2.2)	(2.2)	(100.0)
	編入4年	22				22
		(100.0)				(100.0)
合計		212	1	5	2	220
		(96.4)	(0.5)	(2.3)	(0.9)	(100.0)

4）大学生活の中で大切に思っていること

「専門的知識や技術を習得する」が最も多く 156 名（69.3%）を占めた。また、ほぼ同じ割合で「交友関係」145 名（64.4%）を挙げていた。「教養を深める」は 103 名（45.8%）、「自由を満喫する」27 名（12.0%）、「クラブ・サークル等で活躍する」4 名（1.8%）、「その他」14 名（6.2%）であった。

5）学生生活の充実度

大学生活の充実度は、「やや充実している」回答した学生が 113 名（51.4%）で最も多かった。次いで、「どちらともいえない」48 名（21.8%）、「とても充実している」34 名（15.5%）、「あまり充実していない」23 名（10.5%）の順であった。「全く充実していな

い」と答えた学生も２名（0.9%）いた（表７－３）。この結果は、1990 年の本学の調査および、「学生生活向上に関する調査研究（1999 年度日本私立看護系大学協会）」と同様の傾向を示していた。学年別にみると、１，２年生に「あまり充実していない」が多く、編入生は「充実している」と答える学生が多かった。

表 7－3 学生生活の充実度（学年別）

		とても充実している	やや充実している	どちらともいえない	あまり充実していない	まったく充実していない	合計
学年	1年	5	23	7	7		42
		(11.9)	(54.8)	(16.7)	(16.7)		(100.0)
	2年	6	21	13	9	2	51
		(11.8)	(41.2)	(25.5)	(17.6)	(3.9)	(100.0)
	3年	6	20	6	2		34
		(17.6)	(58.8)	(17.6)	(5.9)		(100.0)
	編入3年	3	18	4	1		26
		(11.5)	(69.2)	(15.4)	(3.8)		(100.0)
	4年	9	17	15	4		45
		(20.0)	(37.8)	(33.3)	(8.9)		(100.0)
	編入4年	5	14	3			22
		(22.7)	(63.6)	(13.6)			(100.0)
合計		34	113	48	23	2	220
		(15.5)	(51.4)	(21.8)	(10.5)	(0.9)	(100.0)

６）大学に対する期待や要望

「福利厚生施設・設備の充実」が最も多く 123 名（54.7%）であった。正課に関連する内容としては、「カリキュラムの改善」「授業内容の改善」がそれぞれ 110 名（48.9%）、46 名（42.7%）と高値を示していた。次いで、「正課関連施設・設備の充実」は 87 名（38.7%）、「教授陣の充実」は 61 名（27.1%）、「奨学金・貸付金・融資資金等の充実」35 名（15.6%）、「学生の就職指導の充実」34 名（15.1%）であり、「講演会、教養講座等課外教育プログラムの充実」28 名（12.4%）についても、要望・期待がみられた。1990 年では第３位に「学生寮の改善」が挙げられていることから、本年度の調査で「福利厚生施設・設備の充実」が最も多かったのは、学生寮に変わる設備や購買部等の設備の充実を望んでいると推測できる。

8．卒業後の進路について

卒業後の進路希望は、「病院等に就職」と答えた学生が222名中154名（69.4%）と最も多く、これに「保健所・保健センターに就職」6名(2.7%)、「企業・自治体に就職」1名(0.5%)を併せると、卒業後専門職者として現場で働くことを考えている学生の割合は72.6%であった。「大学院への進学希望者」は7名（3.2%）、「助産婦学校に進学」3名（1.4%）、「他大学に進学」、「海外に留学」は共に2名（0.9%）であったが、「まだ決めていない・分からない」と答えた学生は41名（18.5%）であった（表8－1）。

学年別にみると、「まだ決めていない・分からない」と回答した者の割合は、編入3年生が10名（38.5%）、編入4年生が6名（27.3%）であり、学部3、4年生の2名（5.9%）、1名（2.2%）に比して、非常に高い値を示していた。この傾向は、先に述べた「入学してから今までの悩みや不安」の内容において、編入生に「将来の進路」を挙げる者の割合が高かったこととも関連していると考えられる。

1996年の結果と比べると、卒後看護専門職として就職希望する者の割合は89.1%から72.9%へと大幅に減少している。こうした傾向は、既に臨床経験などを積んだ編入生（1998年度より）が加わっており、大学院への進学や教育機関への就職を希望する者の割合が増えたこと、あるいは、進路を決めかねている編入生の実態を反映した結果と考えられる。また、学部1、2年生の中にもすでに進学を希望する者がみられている。近年、国内に多くの看護系大学院が設置され、進学を勧める声が高まってきており、こうした背景が、卒業後希望する進路の多様化を促している要因と考えられよう。

表 8－1 卒業後の進路希望について(学年別)

		1年	2年	3年	編入3年	4年	編入4年	合計
卒業後の進路希望	病院等に就職	28 (66.7)	32 (60.4)	31 (91.2)	9 (34.6)	41 (91.1)	13 (59.1)	154 (69.4)
	企業・自治体に就職		1 (1.9)					1 (0.5)
	大学院に進学	2 (4.8)	1 (1.9)		4 (15.4)			7 (3.2)
	他大学に進学	1 (2.4)				1 (2.2)		2 (0.9)
	助産婦学校に進学	1 (2.4)		1 (2.9)		1 (2.2)		3 (1.4)
	教育機関に就職		1 (1.9)		1 (3.8)			2 (0.9)
	保健所・保健センターに就職	1 (2.4)	1 (1.9)		2 (7.7)		2 (9.1)	6 (2.7)
	外国に留学		2 (3.8)					2 (0.9)
	まだ決めていない・わからない	8 (19.0)	14 (26.4)	2 (5.9)	10 (38.5)	1 (2.2)	6 (27.3)	41 (18.5)
	その他	1 (2.4)	1 (1.9)			1 (2.2)	1 (4.5)	4 (1.8)
合計		42 (100.0)	53 (100.0)	34 (100.0)	26 (100.0)	45 (100.0)	22 (100.0)	222 (100.0)

また、就職したい病院は、「日赤系の病院」が 85 名（56.3%）と最も高値であったが、前回調査の 86.7%に比して、著しく減少している。次いで、「国公立・私立の大学病院」が 33 名（21.9%）、「国公立の病院」が 13 名（8.6%）であり、大規模病院に集中している傾向にあった（表８－２）。

学年別にみると、編入４年生の日赤系の病院への就職希望が１名（8.3%）と著しく低値を示していた（表８－３）。これは、すでに日赤関連病院を辞めて進学してきている者が多いということとも関連しているかもしれない。

表 8－2 就職したい病院

	人数
日赤系の病院	85 (56.3)
国公立の病院	13 (8.6)
国公立または私立の大学病院	33 (21.9)
その他の病院	7 (4.6)
診療所	1 (0.7)
その他	12 (7.9)
合計	151 (100.0)

表 8－3 就職したい病院(学年別)

		日赤系の病院	国公立の病院	国公立または私立の大学病院	その他の病院	診療所	その他	合計
学年	1年	15 (57.7)	1 (3.8)	4 (15.4)	2 (7.7)		4 (15.4)	26 (100.0)
	2年	23 (74.2)	2 (6.5)	4 (12.9)		1 (3.2)	1 (3.2)	31 (100.0)
	3年	18 (58.1)	1 (3.2)	8 (25.8)			4 (12.9)	31 (100.0)
	編入3年	5 (55.6)	1 (11.1)	2 (22.2)			1 (11.1)	9 (100.0)
	4年	23 (56.1)	5 (12.2)	7 (17.1)	4 (9.8)		2 (4.9)	41 (100.0)
	編入4年	1 (8.3)	3 (25.0)	7 (58.3)	1 (8.3)			12 (100.0)
合計		85 (56.7)	13 (8.7)	32 (21.3)	7 (4.7)	1 (0.7)	12 (8.0)	150 (100.0)

＜参考資料＞

・学生の生活向上に関する調査研究、日本私立看護系大学協会平成 11 年度年報、31 - 64、平成 12 年 6 月.

・文部省高等教育局学生課編、平成 10 年度学生生活調査報告、大学と学生、第 422 号

附　　録

（調査票）

短　　附

黄金時

＝　学生の生活実態調査　＝

2000.10

調　査　の　目　的

この調査は、皆さんの現在の生活の実態を知り、大学生活をよりよいものにするために行うものです。本調査の目的以外に調査結果を使用することはありませんし、個人が特定されることはありませんので、ありのままをご回答ください。また、調査結果については、後日お知らせいたします。

日本赤十字看護大学　　学生委員会

質問１．現在、住んでいる住居の種類についてお聞きします。下記の項目の中から一つ選んで○をつけてください。

１．自宅　　→　（質問２）へ
２．下宿　　→　（質問１－１）へ
３．アパート・マンション　→　（質問１－２）へ
４．その他（具体的に　　）　→　（質問２）へ

質問１－１．**［質問１で２．下宿］と回答した学生にお聞きします。**
あなたの部屋の居住状態はどの様になっていますか。
下記の、Ａ）～Ｅ）の各項目について、それぞれあてはまるものを一つ選んで番号に○をつけてください。

Ａ）間取りについて

１．4.5畳　　２．６畳　　３．８畳　　４．その他（具体的に　　）

Ｂ）お風呂の有無

１．個人用がある　　２．共同のものがある　　３．風呂は無い

Ｃ）トイレについて

１．個人用がある　　２．共同のものがある

Ｄ）台所の有無

１．個人用がある　　２．共同のものがある　　３．台所は無い

Ｅ）食事について

１．２食付き　　２．１食付き　　３．食事は付かない
４．その他（具体的に　　）

質問１－２．**[質問１で3.アパート・マンション] に回答した学生にお聞きします。**
居住状態はどの様になっていますか。
下記のA）～E）の各項目について、それぞれあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

A）間取りについて

１．ワンルーム	２．1K～１DK	３．2K～2LDK
４．3LDK 以上	５．その他(具体的に　　)	

B）お風呂の有無

１．個人用がある	２．共同のものがある	３．風呂は無い

C）トイレについて

１．個人用がある	２．共同のものがある

D）台所の有無

１．個人用がある	２．共同のものがある	３．台所は無い

E）同居人について

１．いる	２．いない

【全員の方へ】

質問２．あなたは、現在の住居について満足していますか。下記の中からあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

１．満足している　→　（質問３）へ
２．満足していない　→　（質問２－１）へ
３．どちらともいえない　→　（質問３）へ

質問２－１．**[質問２で２.満足していない]を選択した方にお聞きします。**
満足していない理由について、該当する項目全てに○をつけてください。

１．学校から遠い	２．築年数が古い	３．狭い
４．家賃が高い	５．周囲が騒がしい	
６．その他（具体的に　　）		

↓

次のページへ

質問３．現在のあなたの**１ヶ月**の平均的な経済生活などについてお聞きします。
A)～K)の各項目について、それぞれあてはまるもの一つを選んで○をつけてください。

A）総支出額（学校納付金を除く）

1．3万円未満	2．3～6万円未満	3．6～9万円未満
4．9～12万円未満	5．12～15万円未満	6．15～18万円未満
7．18～21万円未満	8．21～24万円未満	9．24～27万円未満
10．27～30万円未満	11．30万円以上	

B）食費（自宅通学者は外食費）

1．1万円未満	2．1～2万円未満	3．2～3万円未満
4．3～4万円未満	5．4～5万円未満	6．5万円以上

C）住居費（家賃、光熱水費を含む）**＜自宅通学者は除く＞**

1．3万円未満	2．3～5万円未満	3．5～7万円未満
4．7～9万円未満	5．9～11万円未満	6．11万円以上

D）勉学費（学納金を除いた書籍、文具、コピー等に要する経費）

1．5千円未満	2．5千～1万円未満	3．1～1万5千円未満
4．1万5千～2万円未満	5．2万円以上	

E）娯楽・嗜好品費（煙草・酒・レジャーなど）

1．5千円未満	2．5千～1万円未満	3．1～1万5千円未満
4．1万5千～2万円未満	5．2万円以上	

F）習い事の費用（英会話・ダンス・茶道・華道等）

1．5千円未満	2．5千～1万円未満	3．1～1万5千円未満
4．1万5千～2万円未満	5．2万円以上	

G）通学費

1．0円	2．5千円未満	3．5千～1万円未満
4．1～1万5千円未満	5．1万5千～2万円未満	6．2万円以上

H）通信費（携帯電話・インターネット契約、接続料等を含む）

1．千円未満	2．千～5千円未満	3．5千～1万円未満
4．1～1万5千円未満	5．1万5千～2万円未満	6．2～2万5千円未満
7．2万5千～3万円未満	8．3万～3万5千円未満	9．3万5千～4万円未満
10．4万～4万5千円未満	11．4万5千～5万円未満	12．5万円以上

I）家族からの援助額

1．3万円未満	2．3～5万円未満	3．5～7万円未満
4．7～9万円未満	5．9～11万円未満	6．11～13万円未満
7．13～15万円未満	8．15～17万円未満	9．17～19万円未満
10．19～21万円未満	11．21～23万円未満	12．23～25万円未満
13．25万円以上		

J）現在受けている奨学金の種類

1．日本赤十字社医療センター
2．日本赤十字社都道府県支部および赤十字病院
3．日本育英会
4．その他（具体的に　　）
5．受けていない

K）ローン、クレジット等のトラブルに巻き込まれたことがありますか。

1．ある　　2．ない

質問4．アルバイトについてお聞きします。大学に入学してから、アルバイトをしたことがありますか。（○は一つ）

1．ある　→　（質問4－1）へ
2．ない　→　（質問5）へ

質問4－1．**[質問4で1．ある]と回答した学生にお聞きします。**
アルバイトの状況等についてお聞きします。下記のA）～G）の各項目について、それぞれお答えください。

A）入学以来、アルバイトをどのようにしていましたか。一つだけ選んで○をつけてください。

1．長期休暇のみ	2．授業期間中ときどき	3．授業期間いつも
4．授業、実習期間いつも	5．長期休暇中及び授業期間いつも	
6．その他（具体的に　　）		

B）アルバイトの主な目的はなんですか。該当する項目全てに○をつけてください。

1．学費及び勉学費を得る	2．生活費を得る
3．クラブ活動・習い事等の費用を得る	4．娯楽・嗜好品費を得る
5．高額商品を購入する	6．社会勉強
7．友人を作る	8．時間が空いているため
9．その他（具体的に　　）	

↓

次のページへ

【C）～G）は、授業期間中にアルバイトをしたことのある学生への質問です。授業期間中にはアルバイトをしたことがない学生は、H）に進んでください。】

C）授業期間中の１週間の平均アルバイト日数はどのくらいですか。 一つだけ選んで○をつけてください。

1．0日	2．1日	3．2～3日	4．4～5日	5．6～7日

D）授業期間中の１回の平均アルバイト時間はどのくらいですか。一つだけ選んで○をつけてください。

1．1時間未満	2．1～2時間未満	3．2～3時間未満
4．3～4時間未満	5．4～5時間未満	6．5～6時間未満
7．6時間以上		

E）授業期間中の１時間当りの平均アルバイト賃金はどのくらいですか。一つだけ選んで○をつけてください。

1．600円未満	2．600～800円未満	3．800～1000円未満
4．1000～1200円未満	5．1200～1400円未満	6．1400～1600円未満
7．1600～1800円未満	8．1800～2000円未満	
9．2000円以上 ［具体的に　　］円		

F）授業期間中の１ヶ月のアルバイト収入額はいくらですか。一つだけ選んで○をつけてください。

1．1万円未満	2．1～2万円未満	3．2～3万円未満
4．3～4万円未満	5．4～5万円未満	6．5～6万円未満
7．6～7万円未満	8．7～8万円未満	9．8～9万円未満
10．9～10万円未満	11．10万円以上	

G）授業期間中のアルバイトについて、該当する項目全てに○をつけてください。

1．家庭教師	2．事務的職種	3．接客業（ウエイター・ウエイトレス等）
4．販売業	5．看護婦（士）・看護助手・ベビーシッター	
6．その他（具体的に　　）		

【H）は、長期休暇中にアルバイトをしたことのある学生への質問です。長期休暇中にはアルバイトをしたことがない学生は、質問５に進んでください。】

H）長期休暇中のアルバイトについて、該当する項目全に○をつけてください。

1．家庭教師	2．事務的職種	3．接客業（ウエイター・ウエイトレス等）
4．販売業	5．看護婦（士）・看護助手・ベビーシッター	
6．その他（具体的に　　）		

【全員の学生にお聞きします。】

質問５．あなたは、現在、課外活動（学内外）に参加していますか。（○はひとつ）

１．加入し、活動している →	
２．加入のみで、活動していない	（質問５－１）へ
３．以前加入していたがやめた	
４．最初から加入していない →	（質問５－２）へ

質問５-１．**「質問５」で１～３と回答した学生にお聞きします。**
課外活動について下記の＜Ａ～Ｃ＞の各項目についてそれぞれ回答してください。

Ａ）加入している（していた）**学内**のサークル・同好会名を具体的にいくつでも記入してください。
例：バレーボール部

Ｂ）加入している（していた）**学外**のサークル・同好会名を具体的にいくつでも記入してください。
例：バレーボール部

Ｃ）課外活動に参加した目的は何ですか。該当する項目全てに○をつけてください。

１．友人を得るため	２．知識・教養・技術等を身につけるため
３．人格形成のため	４．興味・関心があったから
５．楽しむため	６．健康増進のため
７．その他（具体的に　　）	

質問５-２．**[質問５で４.最初から加入していない]と回答した学生にお聞きします。**
課外活動に参加したことのない、主な理由を一つ選んで○をつけてください。

１．課外活動に興味がない	２．興味ある課外活動がない
３．学業と両立しない	４．アルバイトがあるから
５．通学時間が長いから	６．その他（　　）

質問５-３．**[質問５で３.以前加入していたがやめた]と回答した学生にお聞きします。**
課外活動をやめた主な理由を一つ選んで○をつけてください。

１．課外活動に興味がなくなった	
２．課外活動の方針への不満や人間関係上のトラブル	
３．学業と両立しない	４．アルバイトがあるから
５．通学時間が長いから	６．その他（　　）

【全員の学生にお聞きします。】

質問５－４．以下のＡ）～Ｃ）についてそれぞれお答えください。

Ａ）本年度の夏期休暇の主な行動について、該当する項目全てに○をつけてください。

１．国内旅行	２．海外旅行	３．自動車等の免許の取得
４．合宿	５．研究や勉強	６．アルバイト
７．その他（具体的に　　）		

Ｂ）大学入学以来、技術や資格等の獲得のために**学外の学校**に通ったことがありますか。
（○は一つ）

１．ある　→　（Ｂ－１）へ
２．ない　→　（Ｃ）へ

Ｂ－１）**［Ｂ）で１．ある］と回答した学生にお聞きします。**
学外の学校でどのような講座を受講しましたか。下記の講座で該当する項目全てに○をつけてください。

１．語学	２．スポーツ・エアロビクス・ダンス等	
３．各種資格の予備校（資格名：　　）		
４．茶道・華道	５．料理	６．服飾・デザイン等
７．音楽	８．その他（具体的に　　）	

【全員の学生にお聞きします。】

Ｃ）大学主催の課外教育プログラムについて、どのようなものを希望しますか。
最も希望するものを一つ選んで○をつけてください。

１．教養講座等の講演会	２．映画鑑賞
３．音楽鑑賞	４．ハイキング・キャンプ等
５．スポーツ講習会等	６．海外研修
７．救急法の講習会	
８．その他（具体的に　　）	

質問６．学期中の平日（月～金曜日）１日の生活時間についてお聞きします。
Ａ）～Ｅ）の項目毎に、それぞれあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

Ａ）睡眠時間は

Ａ－１）実習がない期間

１．３時間未満	２．3～4時間未満	３．4～5時間未満
４．5～6時間未満	５．6～7時間未満	６．7～8時間未満
７．８時間以上		

A－2）実習期間中

1．3時間未満	2．3～4時間未満	3．4～5時間未満
4．5～6時間未満	5．6～7時間未満	6．7～8時間未満
7．8時間以上		

B）学習時間は

1．1時間未満	2．1～2時間未満	3．2～3時間未満
4．3～4時間未満	5．4時間以上	

C）自由時間（TV・音楽・電話等）は

1．1時間未満	2．1～2時間未満	3．2～3時間未満
4．3～4時間未満	5．4時間以上	

D）通学時間（片道）は

1．30分未満	2．30～60分未満	3．60～90分未満
4．90～120分未満	5．120分以上	

E）課外活動時間は

1．1時間未満	2．1～2時間未満	3．2～3時間未満
4．3～4時間未満	5．4時間以上	

質問7．健康状態についてお聞きします。下記の項目から最もあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

1．いつも好調で、異常を感じない
2．1年に1～2回風邪をひく程度
3．3ヶ月に1～2回は病気によって欠席することがある
4．1ヶ月に1～2回は病気によって欠席することがある
5．常に疲労感や不調を感じている
6．治療している病気がある（具体的に　　）
7．その他（具体的に　　）

質問8．入学してから今までに、悩みや不安はありましたか。

1．あった（ある）　→　（質問8－1）へ
2．なかった（ない）　→　（質問9）へ

質問8－1．**[質問8で1．あった（ある）] と回答した学生にお聞きします。**

A）どんな悩みや不安がありましたか（ありますか）。下記で該当する項目全てに○をしてください。

1．看護婦としての適性	2．学業に関する能力問題
3．健康について	4．人生観について
5．将来の進路	6．友人との人間関係
7．異性問題	8．家族や家庭内のこと
9．経済的な問題	10．課外活動
11．その他（具体的に　　）	

B）その悩みや不安を誰に相談しましたか。下記の項目のなかで最もあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

1．誰にも相談しない	2．友人	3．家族
4．大学の教職員	5．大学の健康管理担当教員	
6．恩師や先輩	7．カウンセラー	
8．その他（具体的に　　）		

【全員の学生にお聞きします。】

質問9．大学が学生相談室を設置しましたが、あなたは利用しましたか。

1．利用した	2．利用していない

質問10．今後、学生相談室をあなたは利用したいと思いますか。あてはまるもの1つを選んで○をつけてください。

1．利用したい	2．できれば利用したい	3．あまり利用したくない
4．利用したくない	5．わからない	

質問11．　次に大学生活についてお聞きします。

A）本学を選んだ理由は何ですか。該当する項目全てに○をつけてください。

1．大学の特色	2．教育内容や専攻分野
3．奨学金制度が充実しているから	4．就職や将来のことを考えて
5．大学の立地条件が良いため	6．周囲のアドバイス
7．その他　（具体的に　　）	

B）本学に入学してよかったと思いますか。最もあてはまるもの一つに○をつけてください。

1．よかったと思う	2．よかったとはいえない
3．どちらともいえない	

C）本学での勉学を続けることについてどのように考えていますか。最もあてはまるものを一つ選んで○をつけてください。

1．このまま勉学を続ける	2．他の看護系大学へ転学したい
3．専攻を変えたい	4．辞めたい

D）大学生活の中であなたが大切だと思っていることは何ですか。
主なもの2つ以内で選んで○をつけてください。

1．専門的知識や技術を習得する	2．教養を深める
3．クラブ・サークル等で活躍する	4．自由を満喫する
5．交友関係	
6．その他　（具体的に　　）	
7．特にない	

E）あなたの学生生活は充実していますか。最もあてはまるものを１つ選んで○をつけてください。

１．とても充実している	２．やや充実している	３．どちらともいえない
４．あまり充実していない	５．まったく充実していない	

F）大学に対して特に期待や要望することについて、下記の項目の中から**３つ以内で**選んで○をつけてください。

1．教授陣の充実
2．カリキュラムの改善
3．授業内容の改善
4．講演会、教養講座等課外教育プログラムの充実
5．正課関連施設・設備（例えば、教室や図書館など）の充実
6．福利厚生施設・設備（例えば、食堂やロッカー室など）の充実
7．課外活動施設・設備（例えば、部室や自治会室など）の充実
8．奨学金・貸付金・融資資金等の充実
9．学生の就職指導の充実
10．その他（具体的に　　）
11．特にない

質問 12．卒業後の進路希望についてお聞きします。以下の項目の中で最もあてはまるものを１つだけ選んで○をつけてください。

1．病院等に就職　→　（質問１２－１）へ
2．企業・自治体に就職
3．大学院に進学
4．他大学に進学
5．助産婦学校に進学
6．教育機関（養護教員などを含む）に就職
7．保健所・保健センターに就職
8．外国に留学
9．専業主婦（夫）
10．まだ決めていない・わからない
11．その他（具体的に　　）

質問 12-1．**[質問 12 で１．病院等に就職]したいと回答した学生にお聞きします。**
どのような病院に就職したいと思っていますか。以下の中から１つだけ選んで○をつけてください。

１．日赤系の病院	２．国公立の病院
３．国公立または私立の大学病院	４．その他の病院
５．診療所	６．その他（具体的に　　）

最後に、あなたご自身についてお聞きします。

Ｆ１．あなたの学年は：

１．１年	２．２年	３．３年	４．編入３年
５．４年	６．編入４年		

Ｆ２．あなたの出身地（都道府県名）は：

１．東京都	２．神奈川県	３．埼玉県
４．千葉県	５．茨城県	６．群馬県
７．栃木県	８．その他（都道府県名　　）	

－　長時間、調査にご協力いただきましてありがとうございました　－

ご記入いただきました調査票は、

１０月１６日（月）までに
学務課前に設置の「学生の生活実態調査　アンケート回収箱」に
お入れください。

第3回　学生生活実態調査報告書作成メンバー
（○は編集委員長）

武井　麻子（教　授）
○遠藤　公久（助教授）
稲田三津子（助教授）
吉田みつ子（講　師）
西村　ユミ（講　師）

第3回　学生生活実態調査報告書　2000年度

２００１年6月１５日　発行
編集　日本赤十字看護大学学生委員会
発行　日本赤十字看護大学
東京都渋谷区広尾４－１－３
電話　(03)　3409－0875
制作・印刷　株式会社　ヒラク
東京都中野区中央３－３４－３
電話　(03)　3381－5462